

ぐんま “まちづくり” ビジョン 安中市アクションプログラム



令和3年6月策定
安中市

CONTENTS

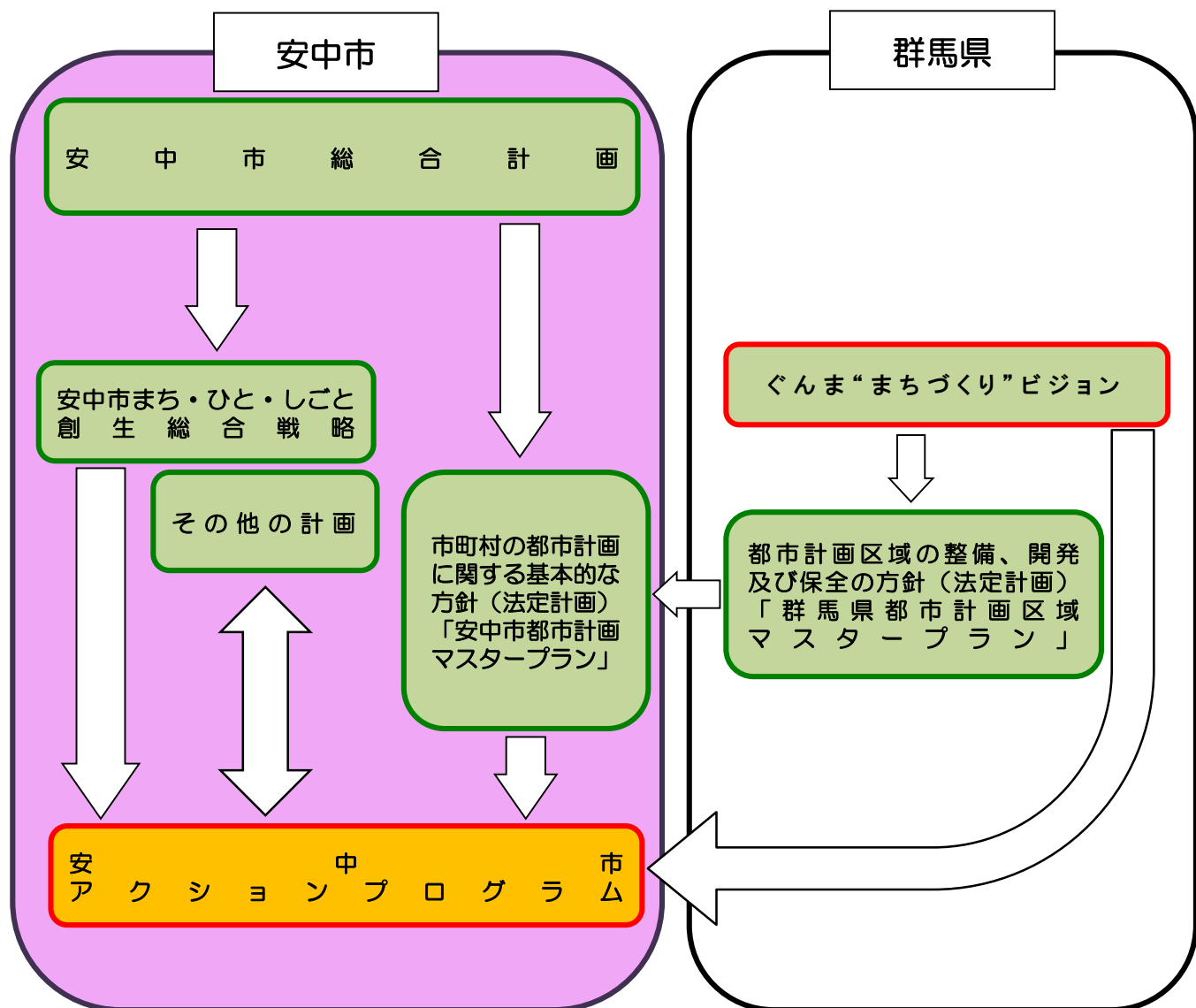
1. 安中市アクションプログラムについて	P2
アクションプログラムの位置づけ	
2. 安中市のまちづくりの現状と課題	P3
2-1. 人口の推移	
2-2. 地区別人口の増減	
2-3. 将来人口推計	
2-4. 地区別の高齢化率	
2-5. 人口動態の推移	
2-6. 土地利用の状況	
2-7. 空き家の状況	
2-8. 道路・交通網の現状	
2-9. 公共交通の現状	
2-10. 自動車依存社会の進展	
2-11. 公共施設等の立地状況	
3. 安中市に今後生じる望ましくない状況	P14
3-1. 人口減少と少子・高齢化の進展	
3-2. 人口の流動化	
3-3. 社会保障関係費の増加	
3-4. 社会資本整備費及び維持管理の増加	
3-5. 高齢者の自動車利用の増加	
3-6. 財政的制約の見通し	
4. 安中市のまちの検証カルテ	P18
5. アクションプログラム策定ワークショップにおける問題点系統図	P21
6. 「まちの将来像」の実現にむけた都市づくりの基本目標	P22
7. 安中市のまちづくりで今後必要となる機能	P23
8. 安中市のまちづくりの基本方針	P24
9. 基本方針に基づく安中市の具体的な取組	P27
10. 重点プロジェクト	P40

重点プロジェクト1. 快適さと魅力あふれるいきいきまちづくり

重点プロジェクト2. 豊かな観光資源を活かした安中らしいにぎわいまちづくり

1. ぐんま “まちづくり” ビジョン 安中市アクションプログラムについて

アクションプログラムの位置づけ



群馬県は「ぐんま“まちづくり”ビジョン」を平成24年9月に策定し、人口減少、超高齢社会におけるこれからの群馬県の取組方針を明らかにしました。

安中市では、この「ぐんま“まちづくり”ビジョン」を踏まえて、上位計画である安中市総合計画や都市計画マスタープラン、市が策定する他の計画との整合性を図りながら、具体的なまちづくりの取組を着実に進めるための実行計画として本アクションプログラムを策定しました。

今後の市のビジョンを公開することで、市民と情報共有を行うことができるとともに、県と市の連携の向上を図ります。

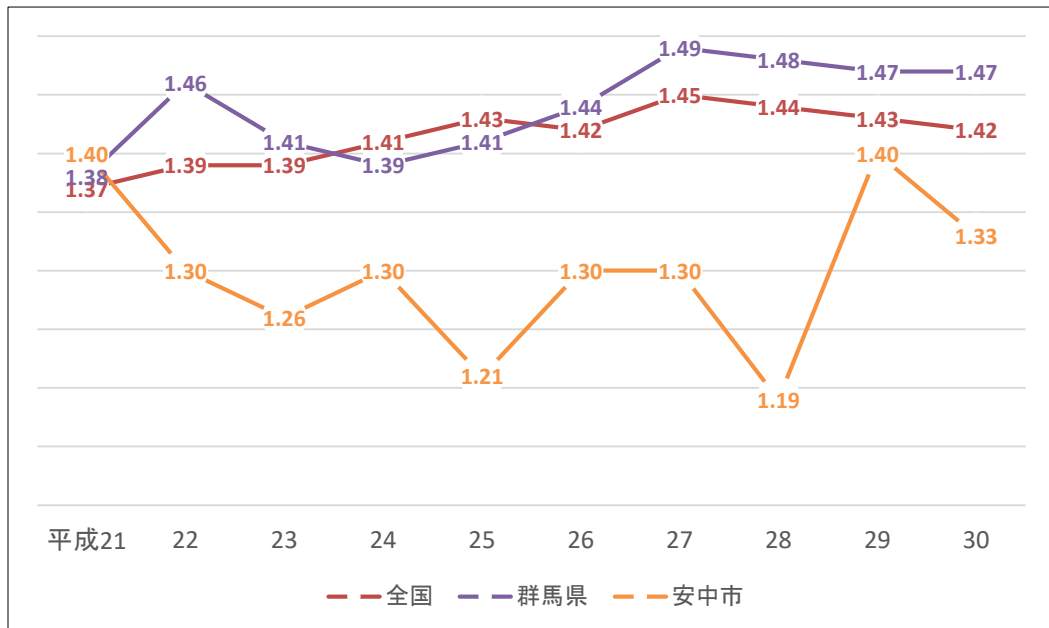
2. 安中市のまちづくりの現状と課題

2-1. 人口の推移

本市の総人口は平成12年（2000年）の64,893人をピークに減少し続けており、合計特殊出生率も、全国や群馬県よりも低い水準となっています。

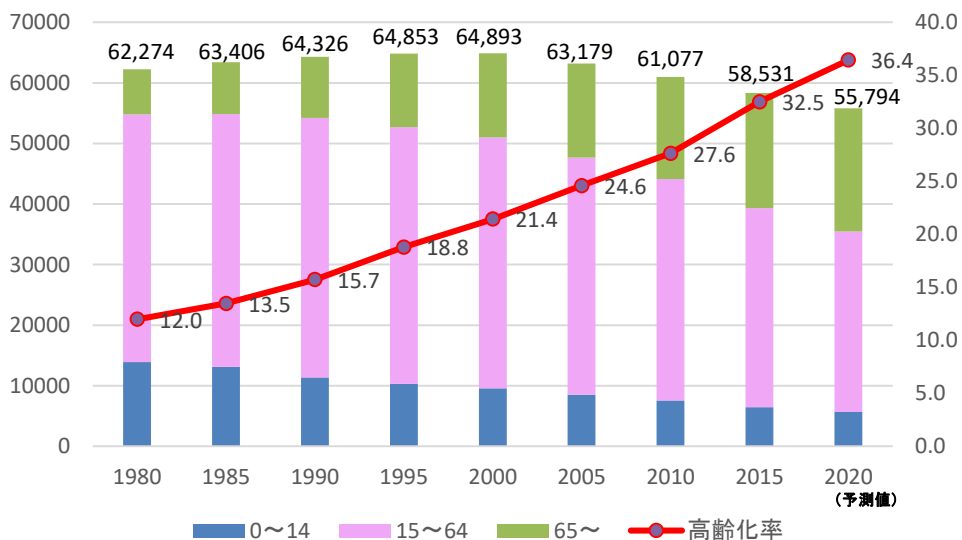
年齢別人口で見ますと、平成2年（1990年）から平成27年（2015年）にかけて、0歳～14歳の年少人口の割合は17.7%から10.0%へと低下し、少子化が進んでいます。一方、65歳以上の老年人口割合は15.7%から32.5%と約2倍の増加率となっています。

合計特殊出生率



資料：群馬県人口動態調査より作成

年齢3区分別人口の推移(合併前を含む)



資料：「国勢調査」（総務省）及び「日本の将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所）より作成

2-2. 地区別人口の増減

本市における地区別人口は、全体的に減少傾向ですが、特に松井田地区、臼井地区、坂本地区、細野地区では減少率が著しくなっています。一方、安中駅周辺や板鼻地区の一部では増加している地域もあります。また、JR北陸新幹線安中榛名駅を擁する秋間地区では、平成17年から平成27年の間は増加傾向にありました。また、市内には人口集中地区（DID地区）がないのも特徴で、市街地に人口が集中することなく、低密度に拡散した都市構造になっています。



平成17年から平成22年の国勢調査区別の人口増減
資料:「国勢調査」(平成22年度、総務省)より作成

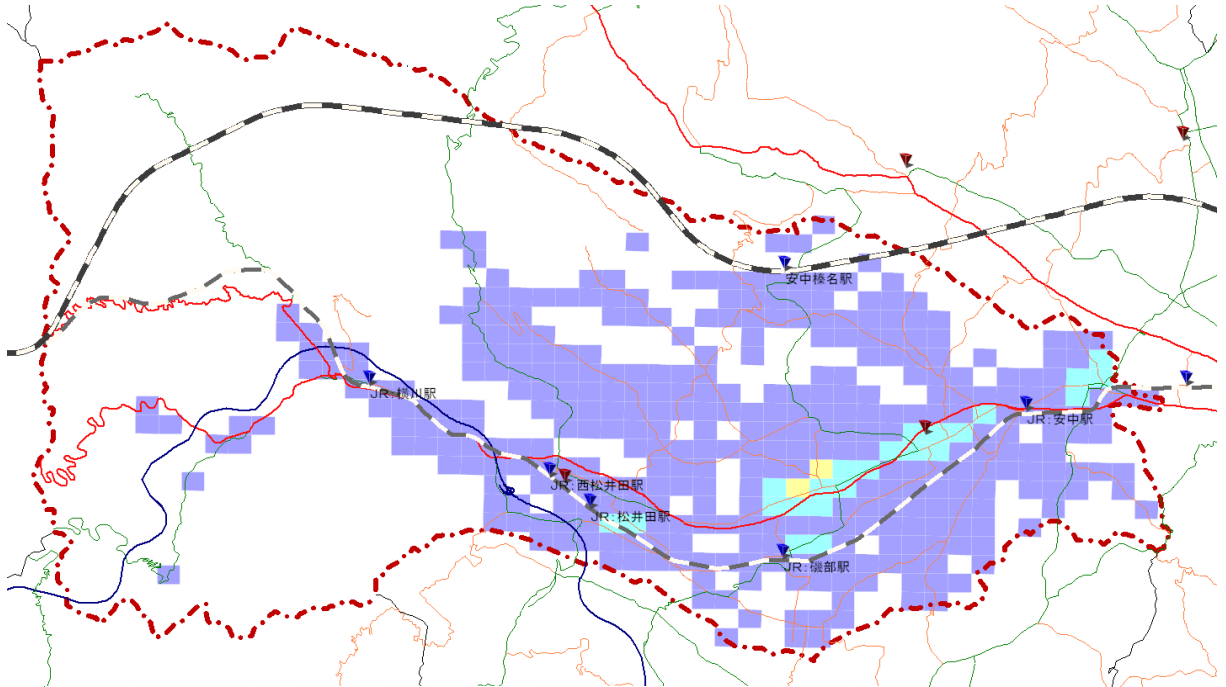


平成22年から平成27年の国勢調査区別の人口増減
資料:「国勢調査」(平成27年度、総務省)より作成

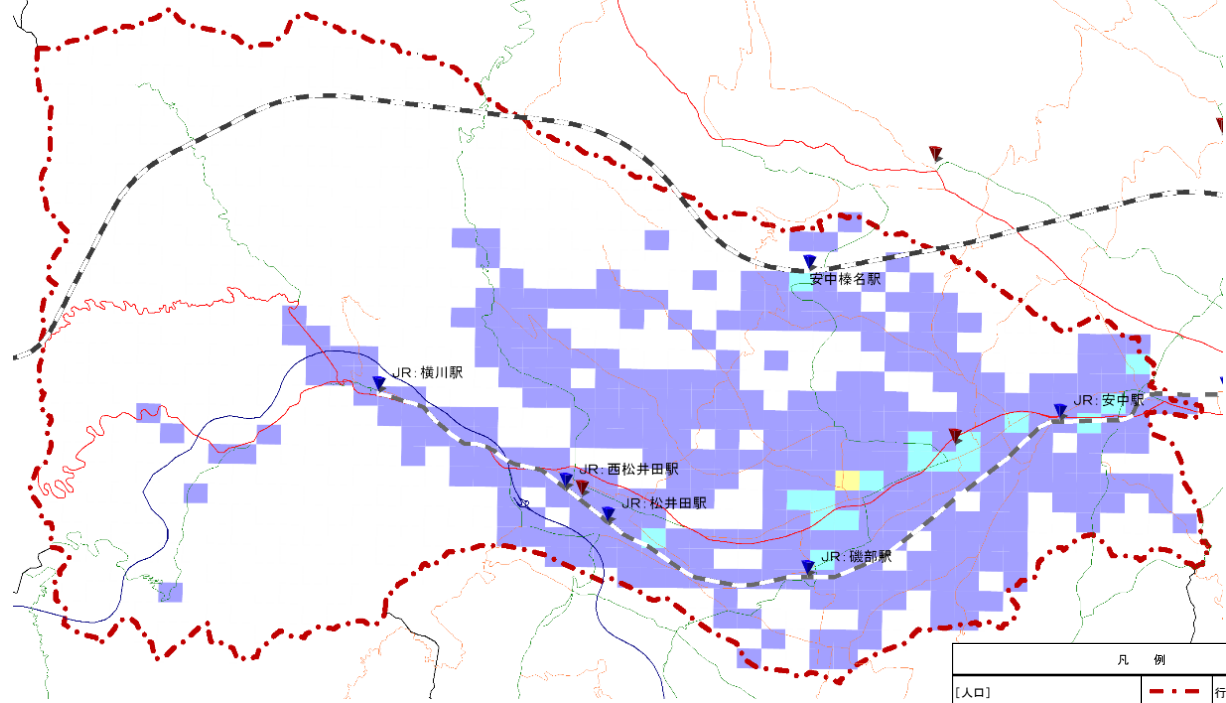
仕様	表示内容
—	鉄道
□	データなし
■	130%以上
■	120%~130%未満
■	110%~120%未満
■	100%~110%未満
■	90%~100%未満
■	80%~90%未満
■	70%~80%未満
■	70%未満

2-3. 将来人口推計

平成27年（2015年）の実績値と令和7年（2025年）推計値の人口を比較してみると、国道18号沿線で人口が多かった地域が、10年後には減少傾向になっていることがうかがえます。



平成27年人口総数〔実績値〕 資料：「国勢調査」（平成27年度、総務省）



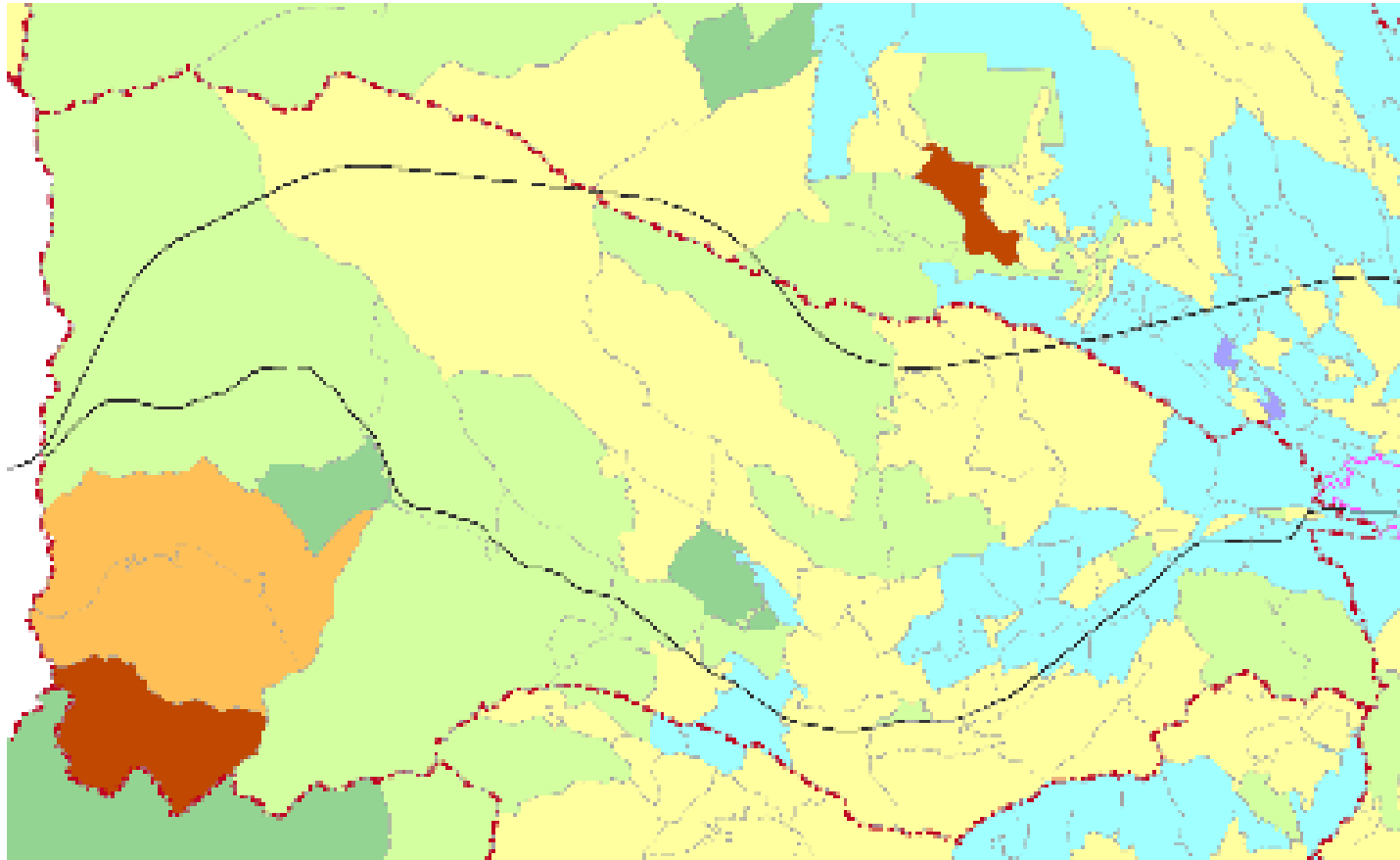
令和7年人口総数〔推計値〕

凡 例	
[人口]	行政界(対象都市)
0人	行政界
1-500人未満	役所、役場、支所等
500-1000人未満	新幹線、鉄道
1000-1500人未満	駅
1500-2000人未満	高速道路
2000-2500人未満	国道
2500-3000人未満	主要地方道
3000人以上	一般県道

2-4. 地区別の高齢化率

本市では、年々高齢化率が増加し、平成27年の国勢調査では32.5%に達しています。中でも、旧松井田町は高齢者の割合が比較的高くなっており、特に坂本地区の西野牧や北野牧においては6割から7割が高齢者と、極端に若い世代の少ない人口構造となっています。

平成27年度高齢化率

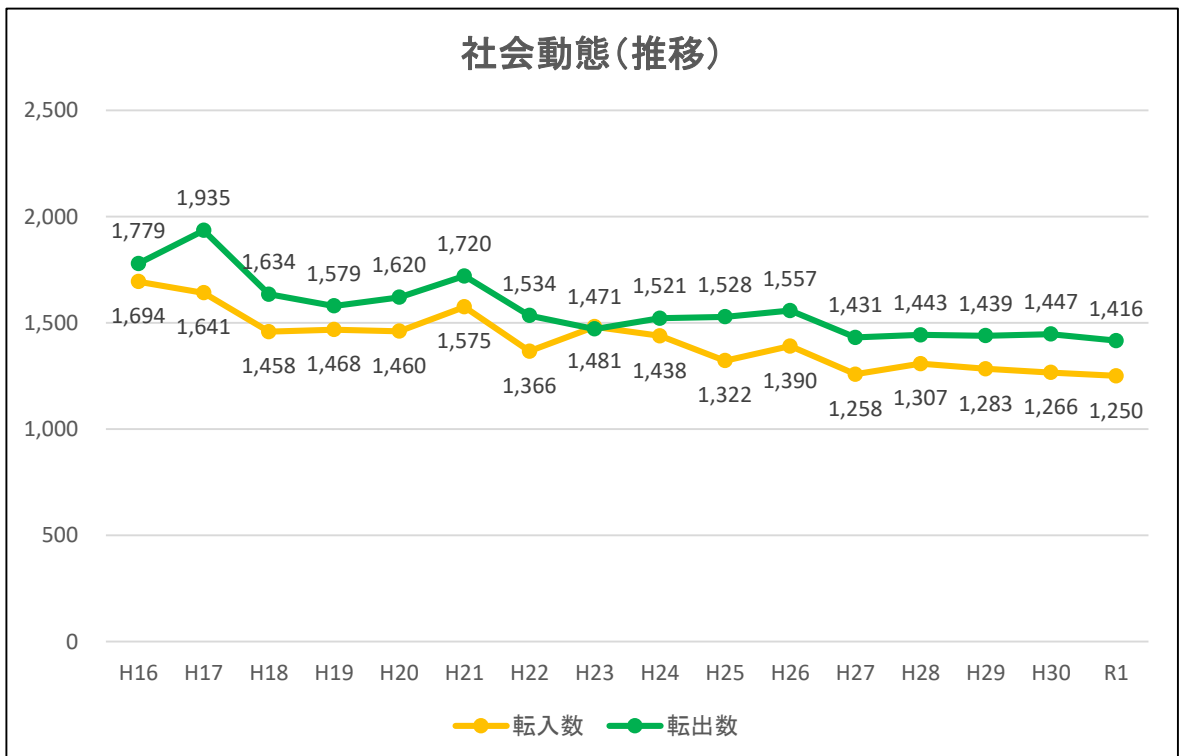
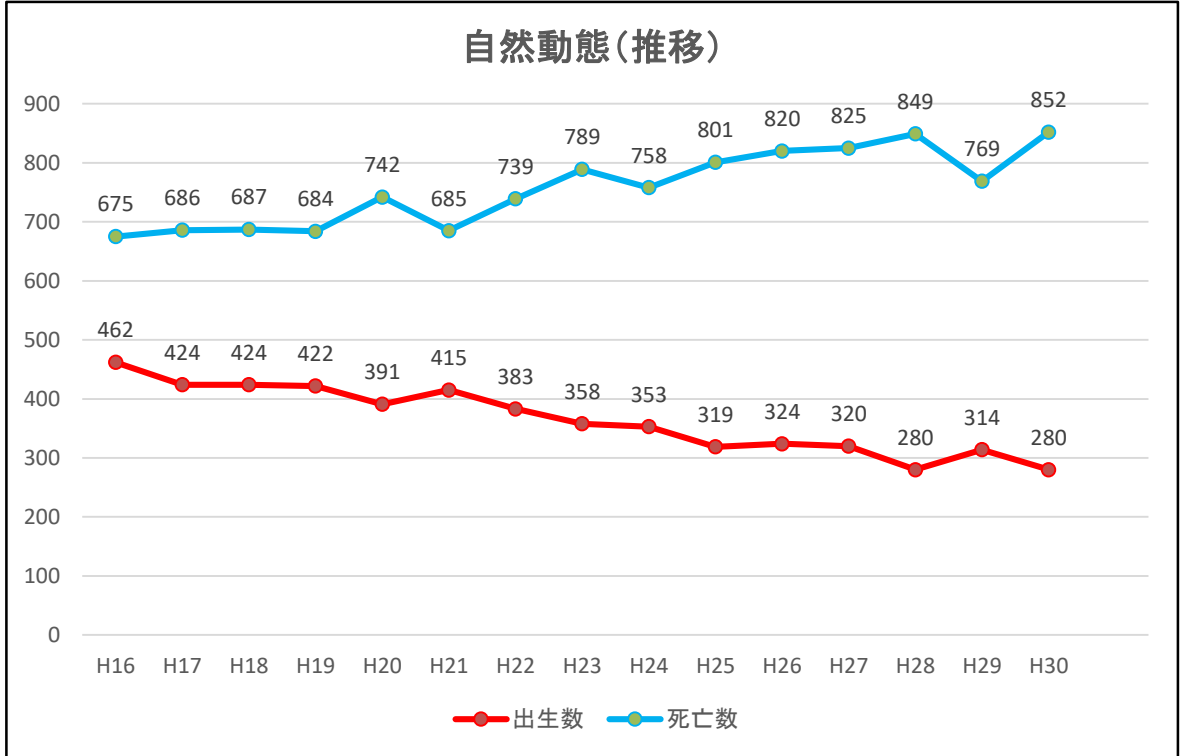


資料:「国勢調査」(平成27年度、総務省)より作成

凡	例
——	鉄道
□	0%-10%未満
□	10%-20%未満
□	20%-30%未満
□	30%-40%未満
□	40%-50%未満
□	50%-60%未満
□	60%-70%未満
□	70%-80%未満
□	80%-90%未満
□	90%以上

2-5. 人口動態の推移

出生・死亡による自然増減と、転入・転出による社会増減をしてみると、死亡者数が出生者数を上回り、転出者数も僅差ではあるものの、転入者数を上回っています。それぞれの差である「自然減」と「社会減」が同時に進行することで、市の人口がますます減少することが危惧されるため、今後何らかの対応が必要です。

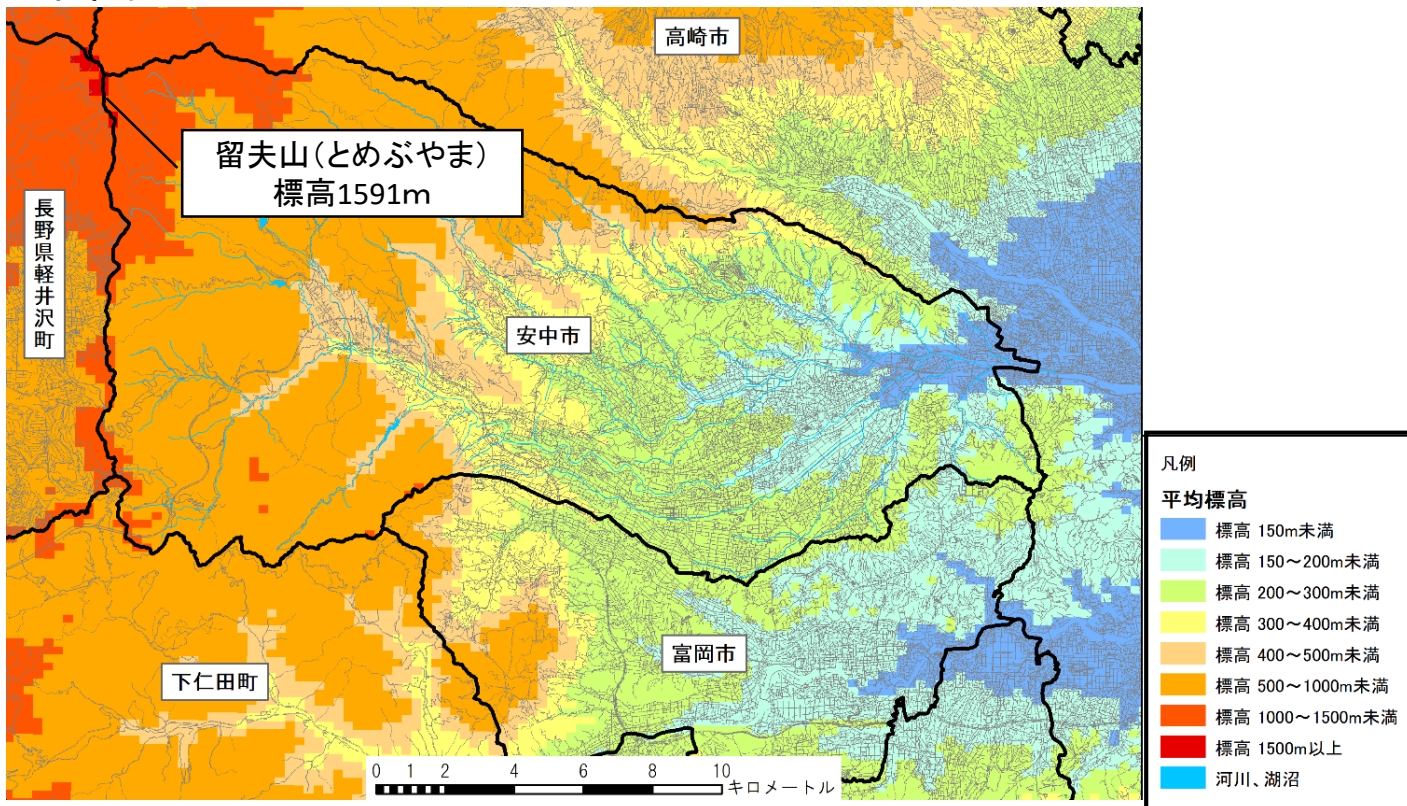


資料:群馬県統計システムより作成

2-6. 土地利用の状況

土地利用の状況は山林が約43%、農地が約24%、住宅地等が約26%、水面・河川等その他自然地在が約7%となっています。標高差が1000mを超える地形が特徴的で、市内を流れる碓氷川や九十九川によって起伏に富んだ河岸段丘が形成され、段丘面の平地が市街地や農地として利用されています。

位置図



土地利用現況図

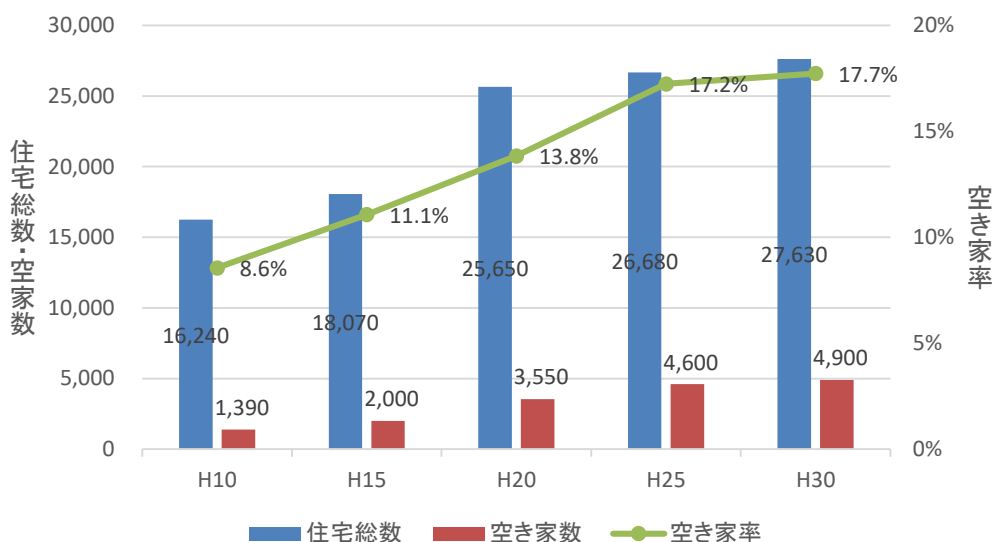


2-7. 空き家の状況

空き家数・空き家率の推移をみると、県、市ともに増加傾向であり、安中市の空き家率は平成10年と平成30年を比較すると、8.6%から17.7%の約2倍に増加しています。

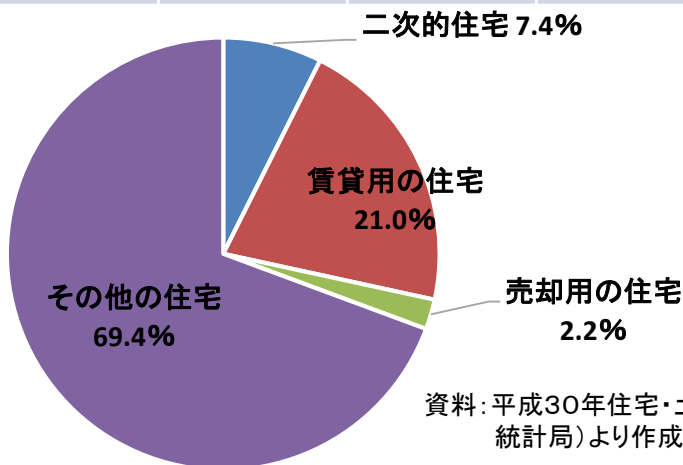
また、空き家の内訳を見てみると、その他の住宅が全体の約7割を占めており、今後の維持管理や周辺環境、景観の悪化が問題となっています。人口も減少傾向であり、このまま空き家数も増加するおそれがあるため、空き家バンクの利用推進を行っていくなどの工夫が必要です。

空き家数と空き家率の推移(安中市)



県・市	住宅総数		空き家数		空き家率	
	H10	H30	H10	H30	H10	H30
群馬県	657,600	949,000	92,600	158,300	14.0	16.7
安中市	16,240	27,630	1,390	4,900	8.6	17.7

空き家の内訳



二次的住宅・・・別荘(週末や休暇時に避暑・避寒・保養などの目的で使用される住宅で、普段は人が住んでいない住宅
別荘以外(普段住んでいる住宅とは別に、残業で遅くなったときに寝泊まりするなど、たまに寝泊まりしている人がいる住宅)

その他の住宅・・・人が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅

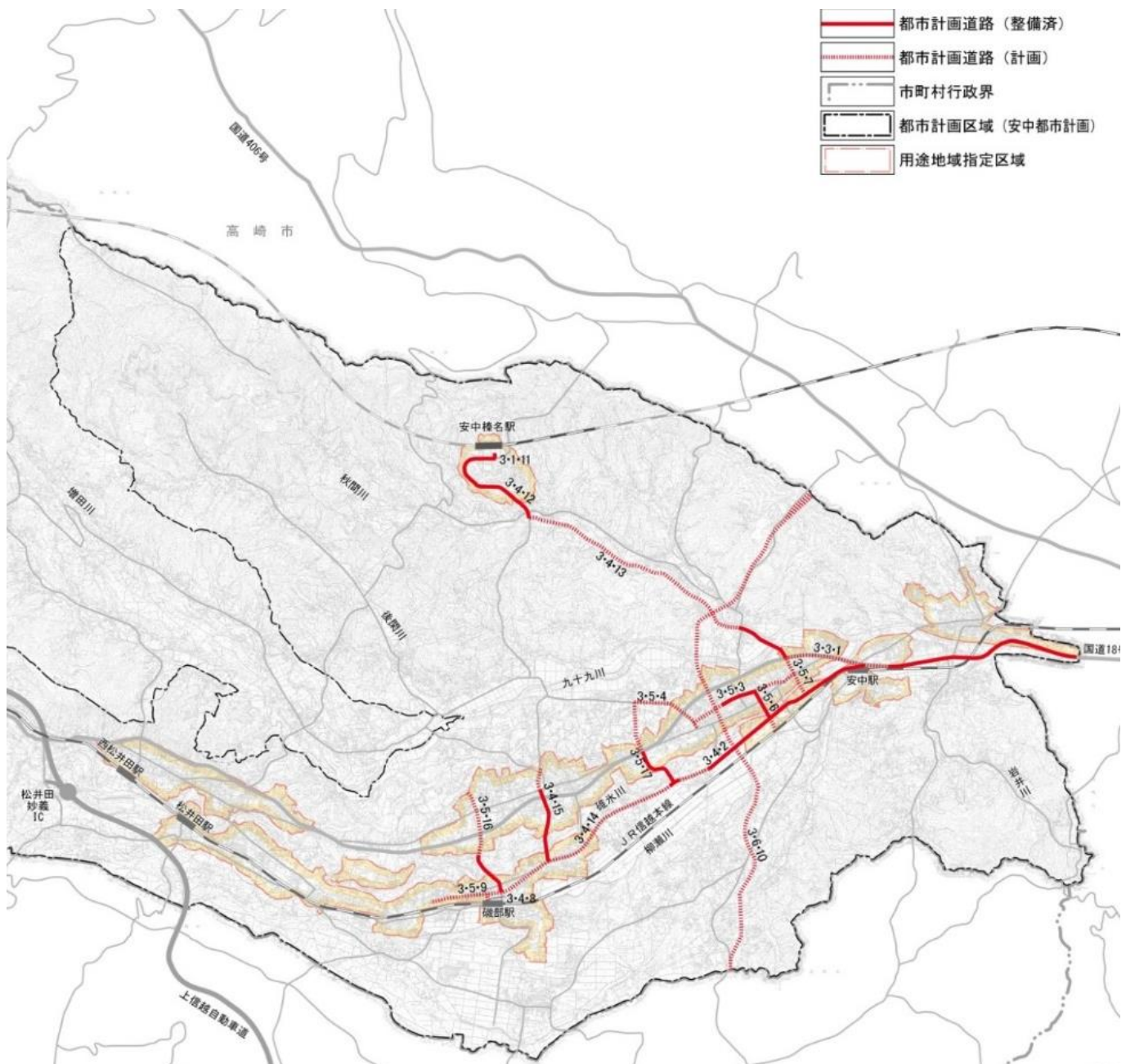
2-8. 道路・交通網の現状

本市の主要な道路としては、高崎市と長野方面を連絡する国道18号が東西に抜けているほか、市域西部には首都圏と信越・北陸地方を連絡する上信越自動車道が通り、松井田妙義、碓氷軽井沢の2つのインターチェンジが設けられています。

また、市域東部で国道18号と交差し県央地域と西毛地域を環状に連絡する西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）が計画され、令和11年度に全線開通予定となっており、周囲の渋滞緩和や物流の効率化、防災機能の向上などが期待されています。

市内の都市計画道路は16路線あり、37.02kmが計画決定されていますが、そのうち15.75kmが事業完了し、整備率42.5%となっています。

鉄道は、市域南部を東西にJR信越本線が通り、安中・磯部・松井田・西松井田・横川の5つの駅と、JR北陸新幹線の安中榛名駅があります。



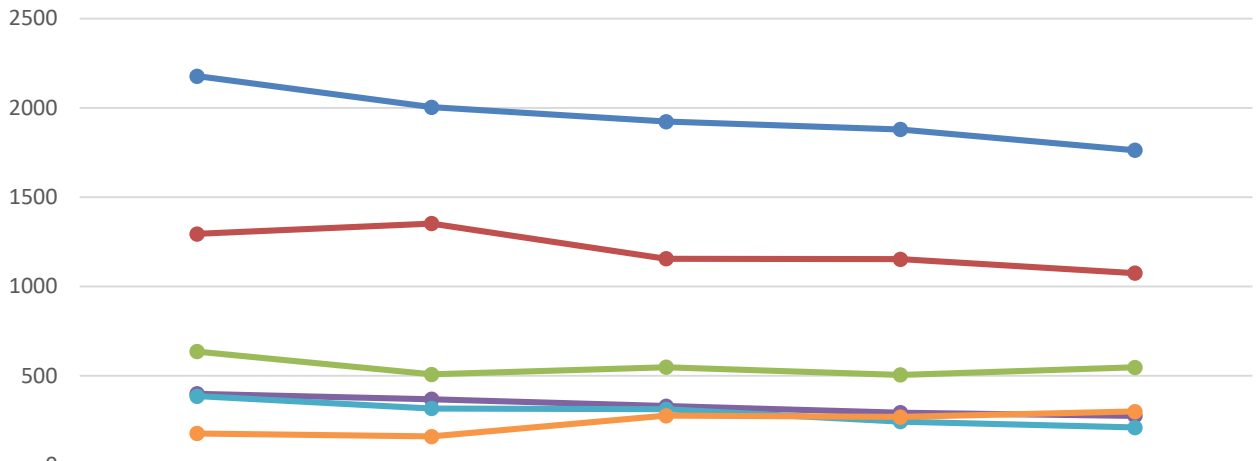
資料:「安中市都市計画マスタープラン
(平成27年策定)」

2-9. 公共交通の現状

公共交通として、鉄道はJR信越本線と、JR北陸新幹線があり、主に通勤・通学に利用されています。さらに乗合バス・乗合タクシー等が運行されていますが、利用客が年々減少しており、公的負担が増加している現状です。

また、既存の公共交通によらない「新たな移動手段」として地域のボランティアの方による相乗り輸送の運行を試みるなど、高齢化が進む地域やバス路線がない地域に住んでいる人の交通手段をどうしていくかが課題となっています。

市内各鉄道駅の一日平均乗車客数

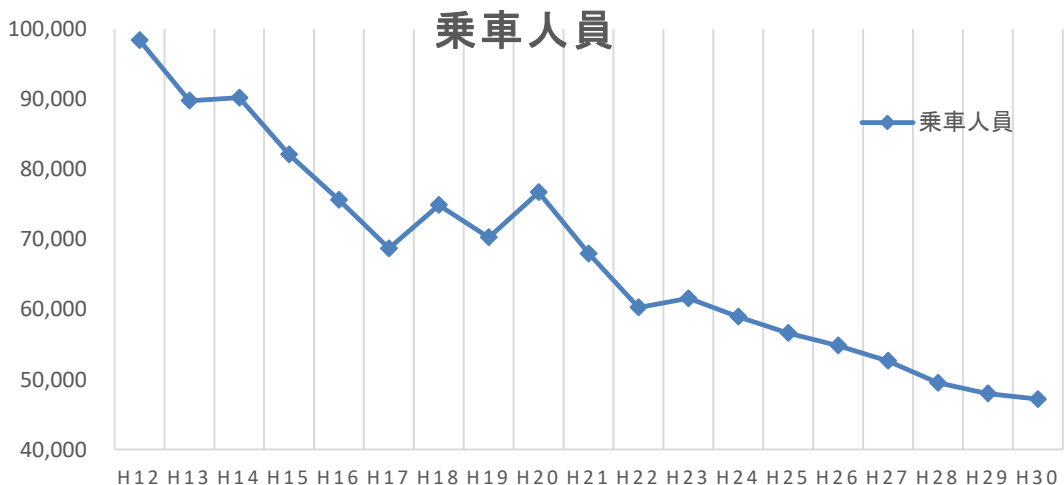


	H10	H15	H20	H25	H30
安中	2178	2004	1,924	1,880	1,763
磯部	1295	1353	1,156	1,153	1,075
松井田	636	508	549	506	548
西松井田	400	369	331	294	276
横川	386	317	313	244	211
安中榛名	178	161	277	270	300

● 安中 ● 磯部 ● 松井田 ● 西松井田 ● 横川 ● 安中榛名

資料: 群馬県統計年鑑より作成

乗合バス・乗合タクシーの乗車人員

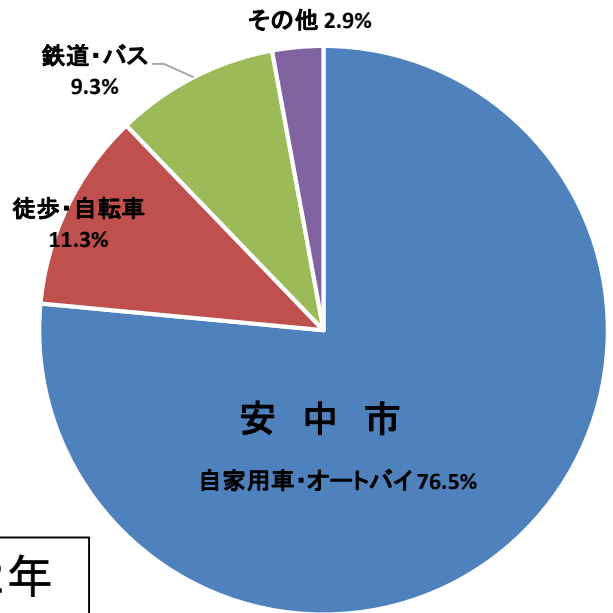
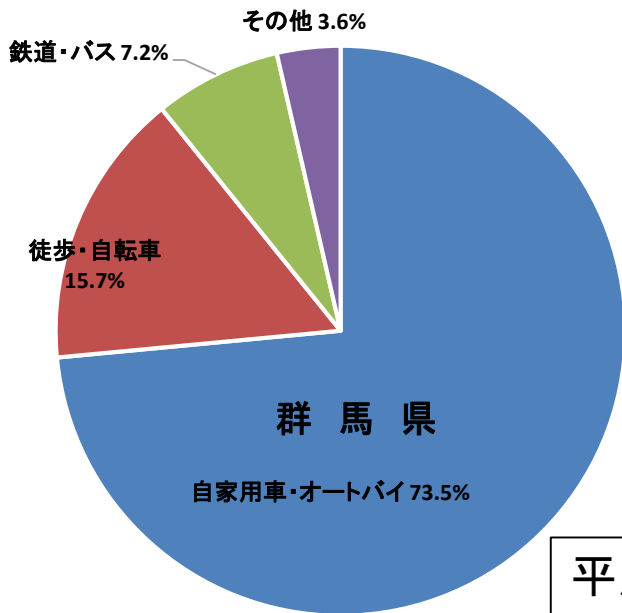


2-10. 自動車依存社会の進展

公共交通機関から自動車への依存度が高くなるにつれて、移動の制約が低くなり、通勤通学圏や経済活動圏の拡がりとともに、市街地の人口密度も低下してきました。

また、当市の通勤・通学の際、利用する交通手段の割合は自家用車・オートバイが7割以上を占めるなど、車社会であることがうかがえます。

通勤・通学の利用交通手段 (15歳以上・複数種類回答あり)



平成22年

(10年毎の調査項目)

資料:国勢調査(総務省)より作成

都道府県別の人口1,000人当たり自家用乗用車 保有台数(軽自動車を含む) (単位:台)

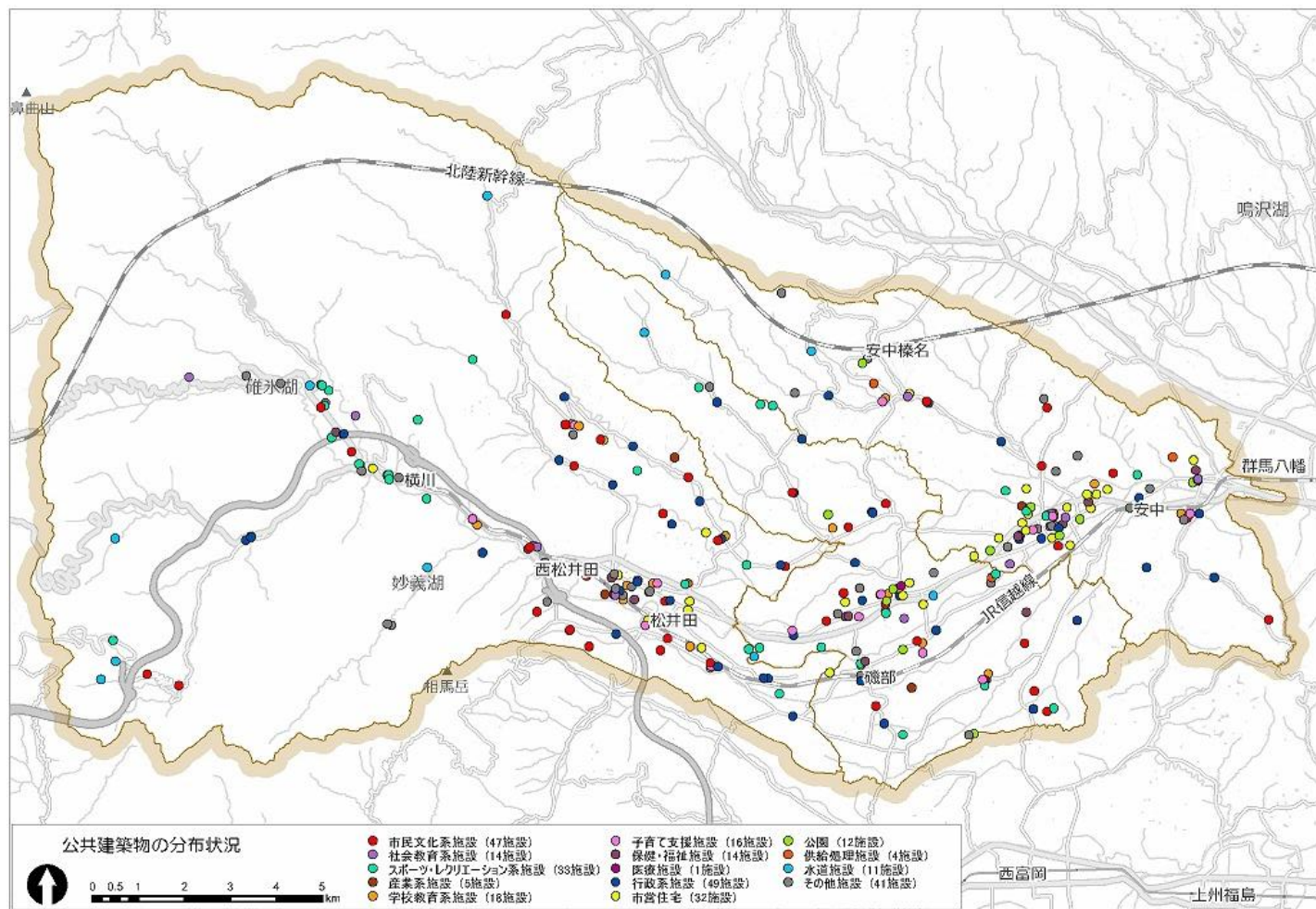
順位	都道府県	1,000人当たりの台数
1	群馬	696
2	栃木	676
3	茨城	674
4	富山	668
5	山梨	667
.	.	.
47	東京	226
	全国	483

資料:(一財)自動車検査登録情報協会
平成31年3月末現在

2-11. 公共施設等の立地状況

市内の公立小中学校は、一部地域での児童・生徒数の減少に伴う統廃合により、現在小学校が12校、中学校が5校となっています。またホールや図書館を備えた「安中市文化センター」や「松井田文化会館」をはじめとする社会教育施設が国道18号沿いを中心に各地に広がっています。

今後は公共施設の老朽化に伴い、適切な維持・管理を行うとともに、長寿命化を図るための具体的な対策も必要です。



資料:「安中市公共施設等総合管理計画(平成29年2月策定)」

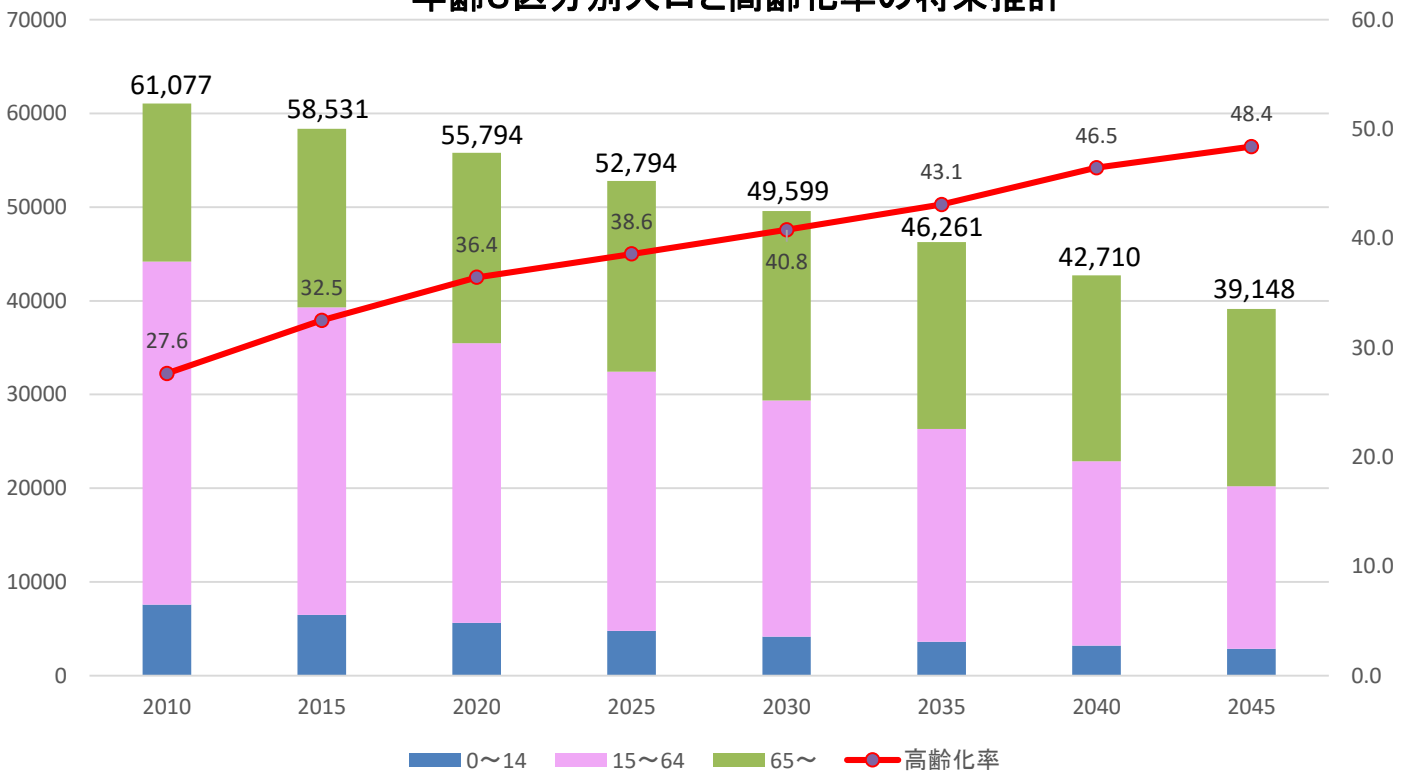
3. 安中市に今後生じる望ましくない状況

3-1. 人口減少と少子・高齢化の進展

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」によると、2045年には市内人口が約40,000人になるとともに、その約半数が65歳以上になると予測されています。

この推計通りに人口減少と少子高齢化が進むと、医療、年金、介護などの社会保障費が増加したり、税収の減少により公共施設や公共交通の維持管理費が賸えなくなることが懸念されます。

年齢3区分別人口と高齢化率の将来推計



年齢3区分別の内訳

単位：人

	0~14	15~64	65~	総数
2010	7,579	36,619	16,879	61,077
2015	6,484	32,999	19,048	58,531
2020	5,641	29,823	20,330	55,794
2025	4,776	27,658	20,360	52,794
2030	4,152	25,216	20,231	49,599
2035	3,609	22,714	19,938	46,261
2040	3,208	19,657	19,845	42,710
2045	2,846	17,357	18,945	39,148

資料：「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)より作成

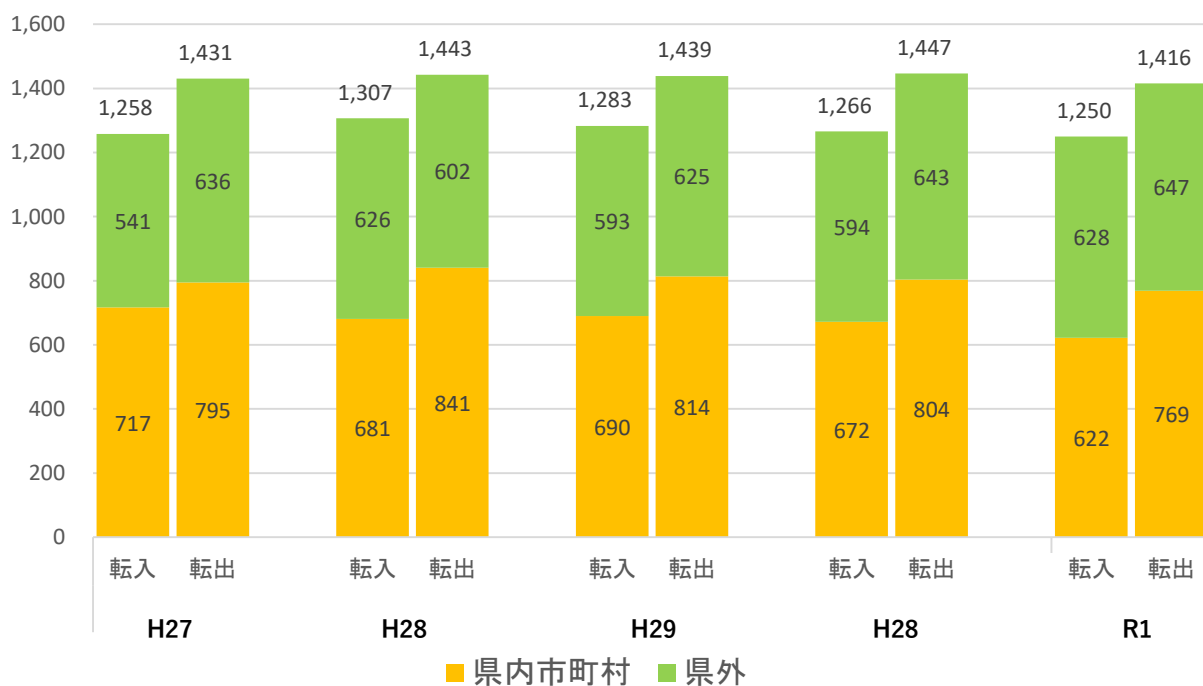
3-2. 人口の流動化による社会減とスポンジ化

本市の転入及び転出による人口移動は、転出超過が続いています。この傾向が続くと、少子化による自然減と相まって、さらに人口減少が進むと予想されます。

また、市街地から郊外へ居住地区が広がると、都市全域にわたりスポンジのような人口密度が低いまちが形成されるほか、新たなインフラ整備が必要となる可能性があります。

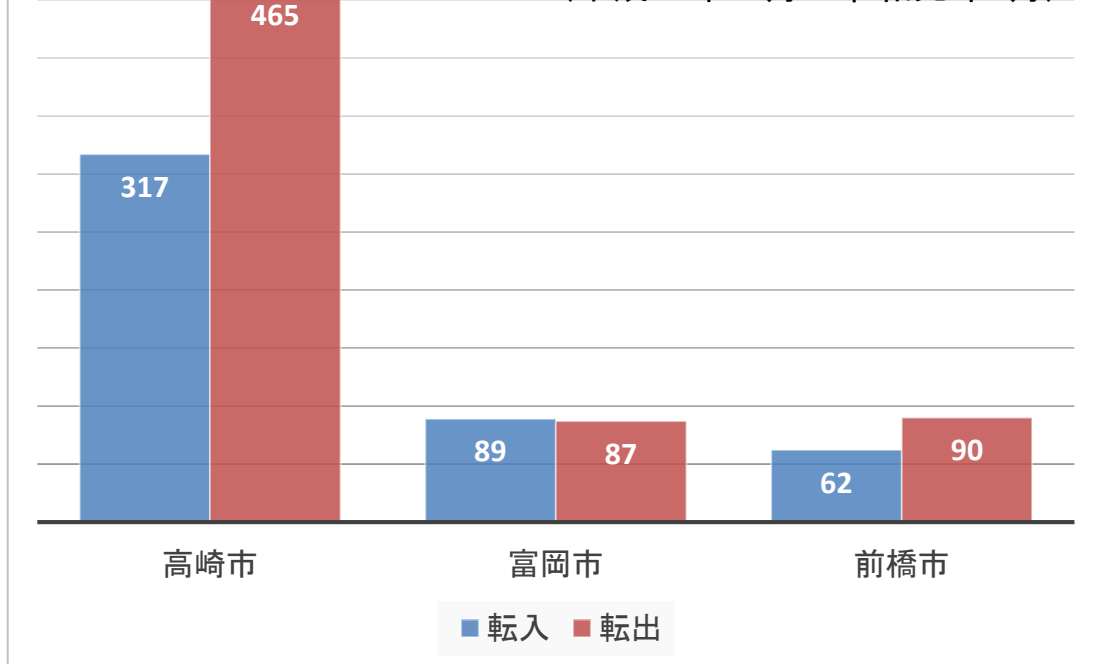
主な転入・転出先を見てみると、上位3市は高崎市、富岡市、前橋市となっています。

転入・転出による人口移動



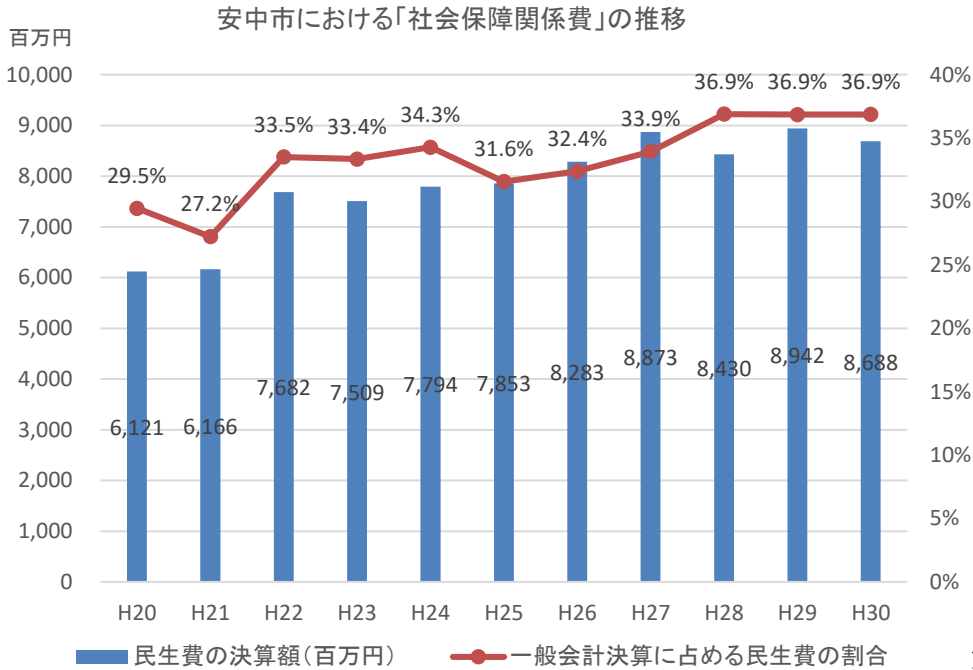
主な転入・転出先市町村

(平成30年10月～令和元年9月)



3-3. 社会保障関係費の増加

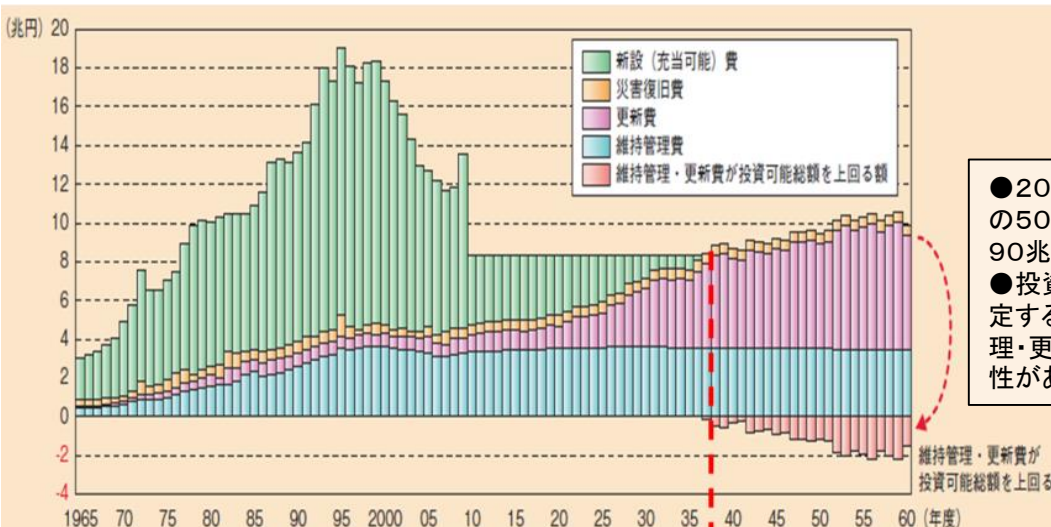
国の「社会保障関係費」にあたる本市の「民生費」の割合は、年々少しずつ増加していますが、ここ数年は横ばいになっています。しかし、民生費の決算額は平成20年の頃と比べると約20億も増加しており、このまま生産年齢人口が減少し、高齢者の人口の割合が増加すると、税収の減少、公共施設の建設・維持管理費などの支出が圧縮される可能性があります。



3-4. 社会資本整備費及び維持管理の増加

限られた予算の中、「維持管理・更新費」の増加により、新しい道路などが作られなくなるだけでなく、道路などの補修工事ができないなど、生活基盤を支える公共施設が維持できなくなる可能性があります。

「社会資本の維持管理・更新費」の推計



資料: 国土交通省「平成21年度国土交通白書」から作成

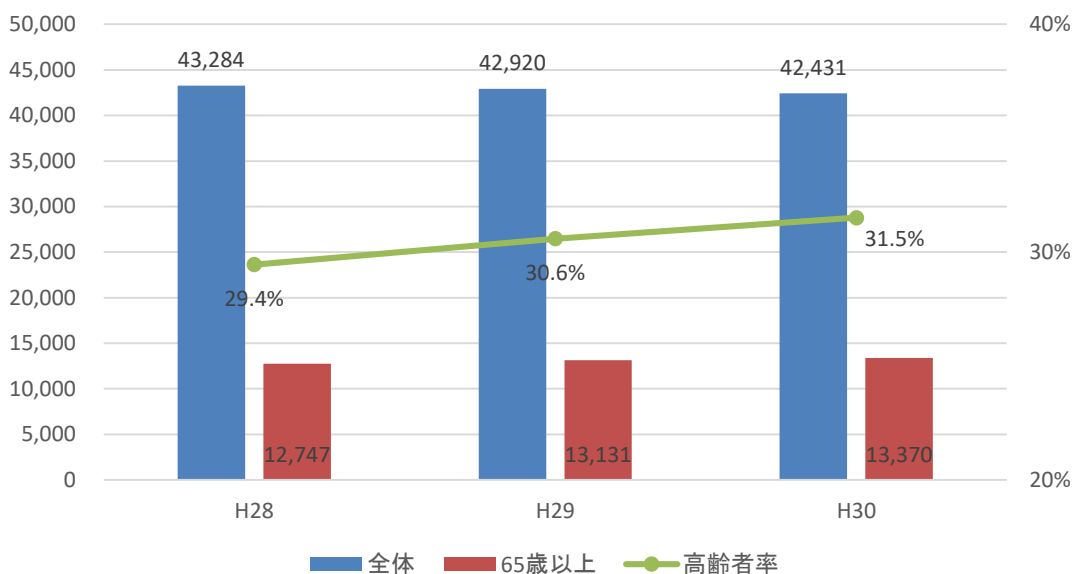
2037年

3-5. 高齢者の自動車利用の増加

平成28年から平成30年までの3年間の運転免許保有者数はほぼ横ばいですが、65歳以上の高齢者の免許保有者数は年々増加しており、今後も高齢化の進行とともに増加することが予想されます。

今後も公共交通の利用減少による公共交通の衰退や、高齢者が原因となる自動車事故の増加が考えられるため、対策が必要です。

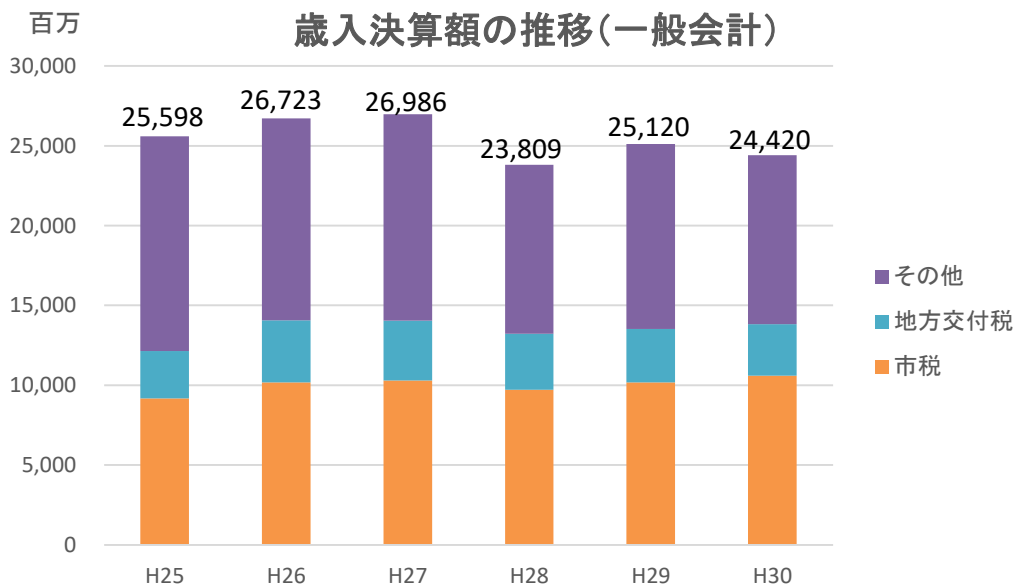
高齢者の運転免許保有率の変化



資料:群馬県警察本部「交通年鑑」より作成

3-6. 財政的制約の増加

今後、人口減少や高齢化が進むことで税収が減っていくことが予想されるため、人件費や公債費の更なる削減や、事務事業の見直しを図らなければならないなど、財政的な制約が大きくなります。



資料:安中市財政課

4. 安中市のまちの検証カルテ

4-1. まちの特性に応じた施策の検討

ぐんま“まちづくり”ビジョンの「将来像実現に向けた基本方針」に基づき今後のまちづくりを推進するため、当市に将来生じる課題を検証し、どのような施策を実施したらよいか検討します。

①現在の状況（用途地域可住地人口密度など）と②将来の状況（人口増減傾向や公共交通徒歩圏人口など）に関する指標を用いて、「市民の暮らし」と「行政運営」で生じる課題の中で対策が必要になる課題を抽出し、解決・回避するための施策を選定します。

施策選定にあたっては、当市の「強み」を活かすことも配慮します。

- ◆ 検証で使用する指標は、次表のとおり10項目を選定し、指標の値は、まちづくりに当面支障がない値(○)と課題悪化に影響する値(▲)に分類します。
- ◆ 各将来課題に影響を与える指標を次のとおり選定します(●)（以下の表）。
- ◆ (例)将来課題「生活が不便になる」は、①・④・⑦・⑧・⑨・⑩の指標が影響します。

指標	現在の状況			将来の状況						
	①用途地域可住地人口密度 (人/ha) (H28年3月末)	②売場効率 (万円/坪) (H26年)	③製造品出荷額 (万円/従業者) (H26年)	④人口増減傾向 (R7年) H22年人口を100とした場合の指数	⑤生産年齢人口減少率 (H22年→R7年)	⑥高齢化率 (R7年)	⑦旧市街地人口増減 (H22年→R7年)	⑧新市街地公共交通徒歩圏外人口増減 (H22年→R7年)	⑨農村地域公共交通徒歩圏外人口増減 (H22年→R7年)	⑩農村地域公共交通徒歩圏人口増減 (H22年→R7年)
○(当面支障ない) ▲(課題悪化に影響)の基準	○:40人/ha以上	○:県平均261万以上	○:県平均3903万以上	○:指数100以上	○:減少率10%未満	○:高齢化率30%未満	○:増加	○:減少	○:減少	○:増加
	▲:40人/ha未満	▲:県平均261万未満	▲:県平均3903万未満	▲:指数100未満	▲:減少率10%以上	▲:高齢化率30%以上	▲:変化なし、減少	▲:変化なし、増加	▲:変化なし、増加	▲:変化なし、減少
使用データ	①平成28年度「都市計画状況調査」(平成28年3月末現在)	②平成26年商業統計調査(第7表)	③平成26年工業統計調査	④国立社会保障人口問題研究所データより作成	④国立社会保障人口問題研究所データより作成	④国立社会保障人口問題研究所データより作成	平成22年国勢調査より推計	平成22年国勢調査より推計	平成22年国勢調査より推計	平成22年国勢調査より推計
推計区域							⑦旧市街地昭和55年DID地域	⑧新市街地旧市街地以外の用途地域	⑨農村地域用途白地地域 ●公共交通徒歩圏 ●公共交通徒歩圏外 ●鉄道駅から500m圏内 ●バス停から300m(市町村委託・デマンドを除く)圏内	

将来課題 ↓	将来課題に影響を与える指標(●)									
	①市街化区域可住地人口密度 (人/ha) (H28年3月末)	②売場効率 (万円/坪) (H26年)	③製造品出荷額 (万円/従業者) (H26年)	④人口増減傾向 (R7年) H22年人口を100とした場合の指数	⑤生産年齢人口減少率 (H22年→R7年)	⑥高齢化率 (R7年)	⑦旧市街地人口増減 (H22年→R7年)	⑧新市街地公共交通徒歩圏外人口増減 (H22年→R7年)	⑨農村地域公共交通徒歩圏外人口増減 (H22年→R7年)	⑩農村地域公共交通徒歩圏人口増減 (H22年→R7年)
生活が不便になる	●			●			●	●	●	●
家計の支出が増える	●						●	●	●	●
地域内の自助・共助が維持できなくなる	●			●	●	●	●	●	●	●
生活環境が悪化する	●			●	●		●	●	●	●
住民の安全・安心な暮らしが脅かされる	●						●	●	●	●
雇用が減る	●	●	●	●	●		●			●
行政コストが増える	●					●	●	●	●	●
税収が減る (交流人口が減る)	●	●	●	●	●	●	●			
税収が減る (流入人口が減る)	●	●	●	●	●	●	●			
税収が減る (定住人口が減る)		●	●	●	●	●				

4-2. 検証結果

各指標を用いて、「市民の暮らし」と「行政運営」で生じる課題の中で対策が必要になる課題を抽出した結果を以下に示します。

課題	①用途地域 可住地人口 密度 (人/ha) (H28年3 月末)	②売場効率 (万円/ 坪) (H26年)	③製造品出 荷額 (万円/従 業者) (H26年)	④人口増減 傾向 (R7年) H22年人口 を100と した場合の 指数	⑤生産年齢 人口減少率 (H27年 →R7年)	⑥高齢化率 (R7年)	⑦旧市街地 人口増減 (H27年 →R7年)	⑧新市街地 公共交通従 参圏外人口 増減 (H27年 →R7年)	⑨農村地域 公共交通従 参圏外人口 増減 (H27年 →R7年)	⑩農村地域 公共交通従 参圏人口増 減 (H27年 →R7年)	課題の 検証結果 ▽：要対策 ○：経過観察 課題の▲が○ より多い、ま たは同数の場 合は▽)
○ 当面支障が ない基準	○：40 人/ha以上	○：県平均 261万以上	○：県平均 3903万以 上	○：指数 100以上	○：減少率 10%未満	○：高齢化 率30%未満	○：増加	○：減少	○：減少	○：増加	
▲ 課題悪化に 影響する基準	▲：40人 /ha未満	▲：県平均 261万未満	▲：県平均 3903万未 満	▲：指数 100未満	▲：減少率 10%以上	▲：高齢化 率30%以上	▲：変化な し、減少	▲：変化な し、増加	▲：変化な し、増加	▲：変化な し、減少	
検証結果	▲25.5	○306	○4007	▲86.1	▲23.6%	▲37.5%	▲減少	○減少	○減少	○増加	
生活が不便 になる	▲			▲			▲	○	○	○	▽
家計の支出が 増える	▲						▲	○	○	○	○
地域内の自助 共助が維持で きなくなる	▲			▲	▲	▲	▲			○	▽
生活環境が 悪化する	▲			▲	▲		▲	○	○	○	▽
住民の安全・ 安心な暮らし が脅かされる	▲						▲	○	○	○	○
雇用が減る	▲	○	○	▲	▲		▲			○	▽
行政コストが 増える	▲					▲	▲	○	○	○	▽
税収が減る (交流人口が 減る)	▲	○				▲	▲				▽
税収が減る (流入人口が 減る)	▲	○	○	▲	▲		▲				▽
税収が減る (定住人口が 減る)		○	○	▲	▲	▲					▽

・・・市民の暮らし

・・・行政運営

4-3. 将来の安中市民のくらしや行政運営に生じる問題

都市の現状や将来予測から、人口減少や高齢化をはじめとする心配な社会情勢が今後進行することにより、市民の暮らしや行政運営に次のような望ましくない状況が生じると考えられます。

市民のくらしにおける問題

(1) 生活が不便になる

- ① 拡散した都市構造の影響で、移動距離や移動時間が増加します。
- ② 低密度に拡散した都市構造の影響で、公共交通が維持できず、買い物弱者などの交通弱者が増加します。

(2) 地域内の自助・共助ができなくなる

- ① 生産年齢人口（15歳以上65歳未満）が減少し、地域を支えるコミュニティが維持できなくなります。

(3) 生活環境が悪化する

- ① 生産年齢人口の減少による労働力や消費の減少により、企業や商業施設が衰退し、空き地・空き家・空き店舗が増加します。

(4) 雇用が減る

- ① 生産年齢人口の減少による消費の減少により、企業や商業施設が衰退し、雇用が減少します。

行政運営における問題

(1) 行政コストが増える

- ① 土地利用の混在や拡散した都市構造の影響で新たな道路、都市基盤整備の維持管理費が増加します。
- ② コミュニティの力が低下し、地域を維持するためのコストが増えます。
- ③ 人口減少などに伴う利用者の減少により、公共交通を維持するためのコストが増えます。
- ④ 気候変動リスクが増え、防災対策費用が増加します。

(2) 交流人口の減少による税収減

- ① 居住者の減少や高齢化により、地域文化の衰退、歴史・文化的資産の荒廃が進み、地域の魅力が低下し、交流人口が減少することで、税収が減少します。

(3) 流入人口の減少による税収減

- ① 空き地・空き家の増加に伴う生活環境の悪化で、まちの魅力がなくなり流入人口が減少し、税収が減少します。
- ② 公共交通が衰退し、生活が不便な魅力のない地域となり、流入人口が減少し、税収が減少します。

(4) 定住人口の減少による税収減

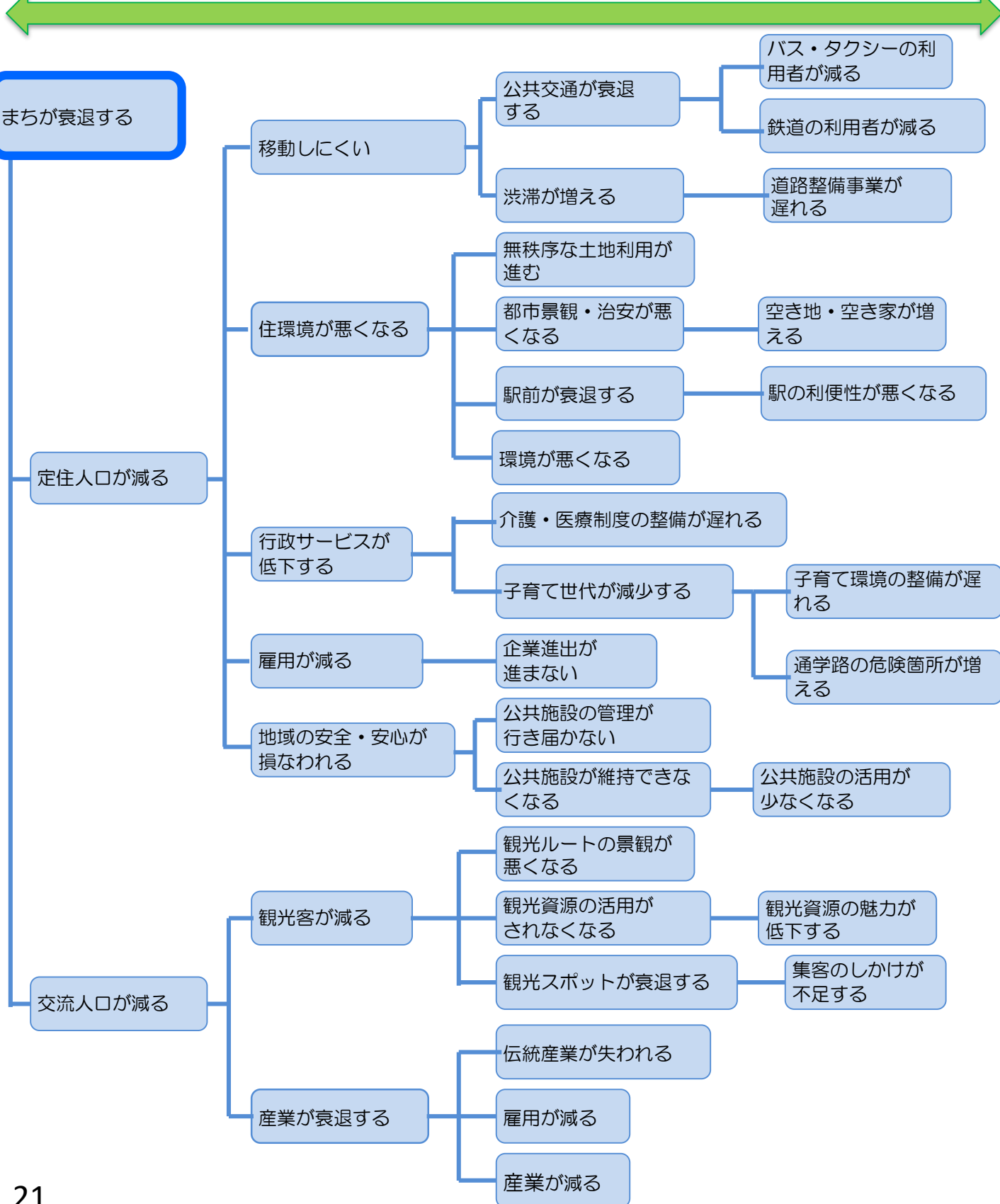
- ① 地域から企業や商業施設が撤退し、雇用の減少・人材の流出により、定住人口の減少を招き、税収が減少します。

5. アクションプログラム策定ワークショップにおける 問題点系統図

このまま人口減少と高齢化が進行した場合に、安中市のまちづくりに生じる課題を、関係する様々なデータやまちの検証カルテ、現地調査などをもとに、群馬県と安中市の職員がワークショップ形式で議論しました。以下はこの議論をもとに、問題点を「原因」と「結果」の関係で系統図として整理したものです。

【結果】

【原因】



6. 「まちの将来像」の実現にむけた都市づくりの基本目標

人口増加時代のまちづくりの考え方を見直し、ぐんま“まちづくり”ビジョンに沿って今後望ましくない状況を回避し、望ましい状況へ転換を図るため、以下のとおりまちづくりの基本目標を定め、望ましいまちの将来像の実現を目指します。



まちづくりビジョン

望ましい将来像



「安中市に今後生じる望ましくない状況」

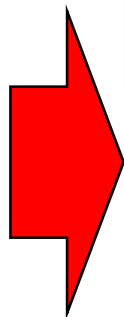
- 人口減少と少子・高齢化の進展
- 人口の流動化による社会減とスポンジ化
- 社会保障関係費の構成比の増加
- 社会資本整備費及び維持管理費の増加
- 高齢者の自動車利用の増加
- 財政的制約の増加

「安中市のまちの検証カルテ」

- 生活が不便になる
- 地域内の自助・共助ができなくなる
- 生活環境が悪化する
- 雇用が減る
- 行政コストが増える
- 税収が減る
(交流人口・流入人口・定住人口が減る)

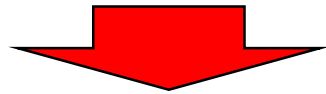
目指すべき望ましい状況

- 人口の維持と少子・高齢化の改善
- 人口の流失・スポンジ化の抑制
- 社会保障関係費の構成比の低減
- 社会資本整備費及び維持管理費の低減
- 公共交通利便性の向上
- 地域内のつながりを強化する
- 生活環境を良くする
- 雇用を増やす
- 行政コストを減らす
- 税収を増やす
(交流人口・流入人口・定住人口を増やす)



まちづくりの基本目標より
(第2次安中市総合計画)

- 人にやさしく、快適に暮らせる魅力的なまち
- 豊かな自然に包まれ、安全・安心に暮らせるまち
- 地域資源を活かした、にぎわいと活力のあるまち



安中市が目指す将来のまちの姿
(安中市総合計画)

みんな元気で いきいき暮らせる 市民総働のまち あんなか

※「第2次安中市総合計画（平成30年度策定）」から引用

7. 安中市のまちづくりで今後必要となる機能

ここでは、望ましくない状況を回避し、望ましい将来像である「みんな元気で いきいき暮らせる 市民総働のまち あんなか」のまちづくりに必要となる機能を、問題点系統図を踏まえて機能系統図として整理しました。系統図の左が目的（最上位機能）、右が手段になります。

【目的】

【手段】



8. 安中市のまちづくりの基本方針

8-1. まちづくりの機能と7つの基本方針の整理

ぐんま“まちづくり”ビジョンで掲げる「ぐんまらしい持続可能なまち」の7つの基本方針と、安中市の機能系統図で示された機能との関連を以下のとおり整理しました。

機能

基本方針

移動しやすくする

基本方針1
人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築

住環境を整える

基本方針2
空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による街なかへの転居の促進や集客施設の誘致

行政サービスを維持向上する

基本方針3
地域の誇れる個性・景観・くらしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり

雇用を増やす

基本方針4
都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保

地域の安全・安心を強化する

基本方針5
災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化

観光客を増やす

基本方針6
ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり

産業を活性化する

基本方針7
家計にも環境にも優しい付加価値の高い効率的なまちづくり

8-2. 基本方針に基づく安中市の取組内容

まちづくりの基本目標を達成するため、基本方針と取組内容を「ぐんま”まちづくり”ビジョン」の基本方針で示された施策の中から当市では以下のものを選択し、具体的な取組を行っています。
※詳細は県ビジョンのP43～45を参照

基本方針1 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築

➤計画的に既存市街地の整備を行うとともに、各交通機関の相互連携のとれた公共交通ネットワークの再構築を図ります。

取組 都市機能の拡散を抑える。 移動の負担を軽減する。 交通結節機能を強化する。

基本方針2 空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による街なかへの転居の促進や集客施設の誘致

➤空き家バンクによる情報の提供やその他の条例等により、空き家等の適切な管理や活用を計画的に推進するとともに、移住・定住実現のための支援体制を整備します。

取組 空き地や空き家を有効活用する。 良好な居住環境を増やす。

基本方針3 地域の誇れる個性・景観・くらしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり

➤地域固有の景観の保全と良好な景観形成の推進を図るとともに、まちのまとまりを中心に、誰もが暮らしやすい都市環境を整備することにより、安中市の魅力向上を目指します。

取組 地域資源を保全・活用する。 集客交流情報を発信する。 居住人口を維持する。
雇用の場を増やす。 子育て・教育環境を充実させる。 介護・医療を充実させる。
地域力を高める。 歴史・文化を保全・活用する。

基本方針4 都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保

➤公共交通の総合的な見直しや公共交通ネットワークの再構築を図るとともに、駅の利便性向上や、周辺整備、効果的な情報提供に努めます。

取組 移動手段の選択肢を増やす。 移動の負担を軽減する。

基本方針5 災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化

➤防災拠点を整備したり、自主防災組織の結成促進に努めます。

取組

安全・安心な地域を維持する。

基本方針6 ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり

➤工業団地の計画的な整備の検討と、交通の利便性や自然災害リスクの低さなど、地域特性を活かし、優良企業の誘致を積極的に推進します。

取組

企業や産業の誘致を図る。

新たな産業を創出する。

基本方針7 家計にも環境にも優しい付加価値の高い効率的なまちづくり

➤環境に配慮した取組を推進し、今よりもさらなる生活の質の向上を目指します。

取組

地域ニーズに適した質の高い行政サービスを提供する。

廃棄物の削減とリサイクルを促進する。

9. 基本方針に基づく安中市の具体的な取組

凡例 重1:重点プロジェクト1の取組 (P.41～) 重2:重点プログラム2の取組 (P.43～)

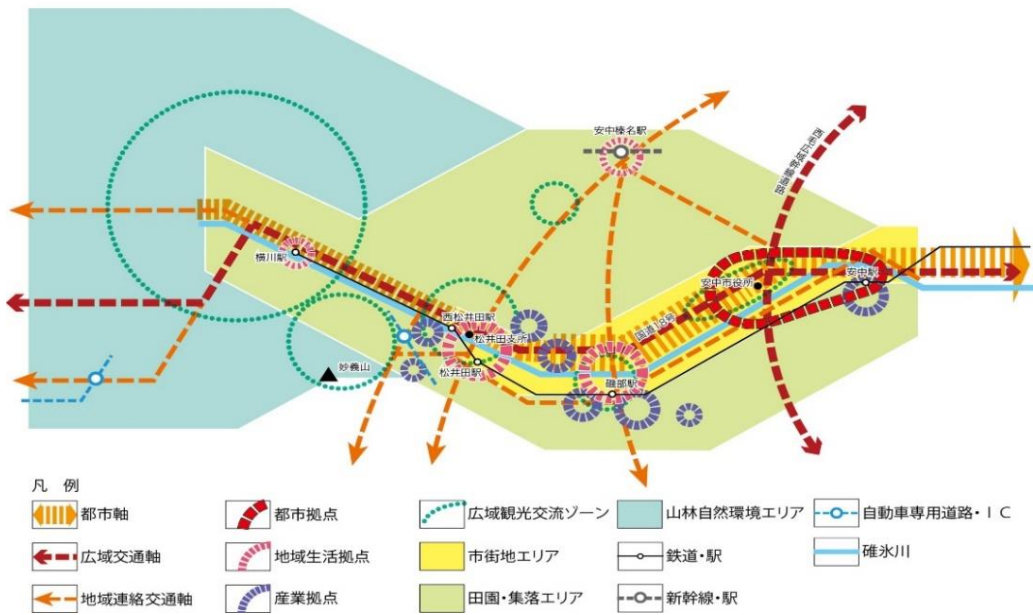
基本方針1. 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築

都市機能の拡散を抑える。

土地利用に関する都市計画の見直しを行い、地域の特性にあわせて用途地域や地区計画の決定を検討します。秩序あるまちづくりを実現することにより、乱開発や建物の用途混在を防ぎます。また、都市計画区域マスタープランに基づき、区域区分や代替案による土地利用規制を検討します。

重1-1.土地利用に関する都市計画見直し事業 (～R4予定)

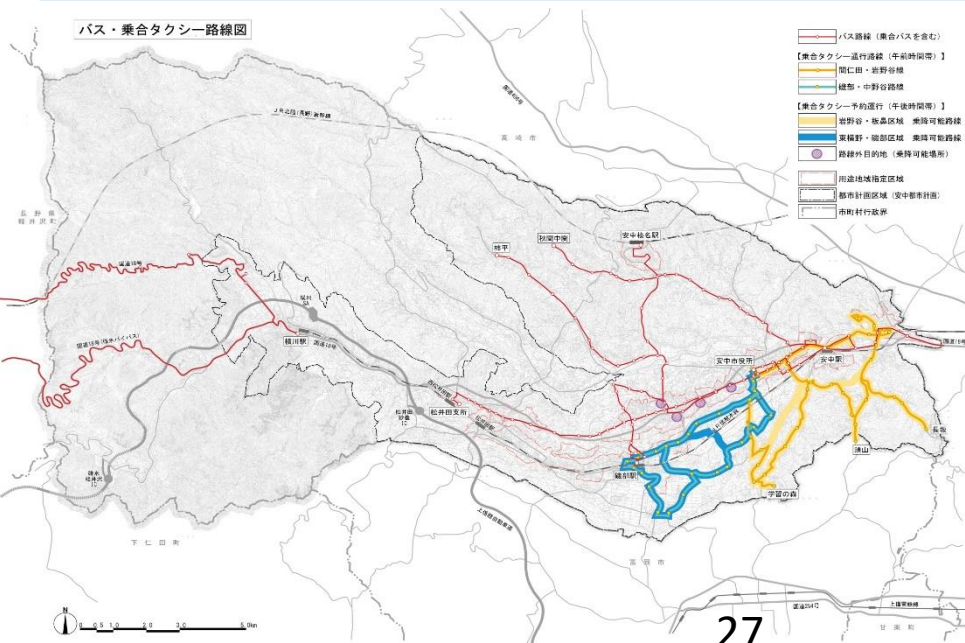
◆安中将来都市構造図(模式図)



移動の負担を軽減する。

公共交通の総合的な路線の見直し及び利用促進対策を検討し、交通弱者の移動手段を確保するとともに、生活の利便性を向上させます。

重1-9.交通弱者救済措置事業



【乗合タクシー】

市民ニーズを踏まえた的確な対応に努め、利用者の負担が軽減するよう、公共交通ネットワークの再構築を図ります。

また、交通弱者救済措置事業として、交通弱者がタクシーを利用する場合その料金の一部補助と、乗合バスの敬老割引を行っています。

重1-4.交通弱者救済措置事業



5,800円利用可能なバスカードを4,750円で販売
さらに市内在住の65歳以上の方は4,250円で購入可能

3,550円利用可能なバス回数券を3,000円で販売
さらに市内在住の65歳以上の方は2,550円で購入可能

【各種割引バスカードの一例】

交通結節機能を強化する。

鉄道やバスなどの公共交通機関の連携による利便性の向上や利用促進を図るために、利用者ニーズに合わせた路線検討や、ダイヤ改正を行っていきます。

重1-10.公共交通見直し事業



【JR磯部駅】



【乗合バス】

基本方針2. 空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による まちなかへの転居の促進

(まちなかとは、鉄道駅周辺や旧宿場町周辺等の拠点です。)

空き地や空き家を有効活用する。

平成30年3月に策定された「安中市空家等対策計画」に基づき、空き家の適切な管理と空き家の解消（除却・活用等）を促進します。併せて、空き家バンクの利用・推進や、農地付き空き家を売り出すなど、空き家を少しでも減らすことで、まちなかにぎわいを維持できるようにします。

その他にも、空き家バンクに登録されている空き家について、リフォーム工事や家財処分を行う場合、その費用の一部を補助します。

また、市内に初めて住宅を購入し居住する人には、移住定住促進住宅取得支援事業として、あんなか住まいりー奨励金を交付します。

重1-14.空き家リフォーム補助事業 重1-15.移住定住促進住宅取得支援事業住まいりー奨励金



【空き家をコミュニティスペースとして利活用】

良好な居住環境を増やす。

住宅リフォーム補助事業を行い、市民の住環境の改善を図ります。リフォームは市内業者に工事を発注することで地域経済の活性化を促進します。また、市営住宅についても、計画的な修繕等を実施し、長寿命化を図るとともに、老朽化の進む市営住宅については順次取り壊しも行っています。

重1-16.住宅リフォーム補助事業



【リフォーム前】



【リフォーム後】

基本方針3. 地域に誇れる個性・景観・暮らしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり

地域資源を保全・活用する。

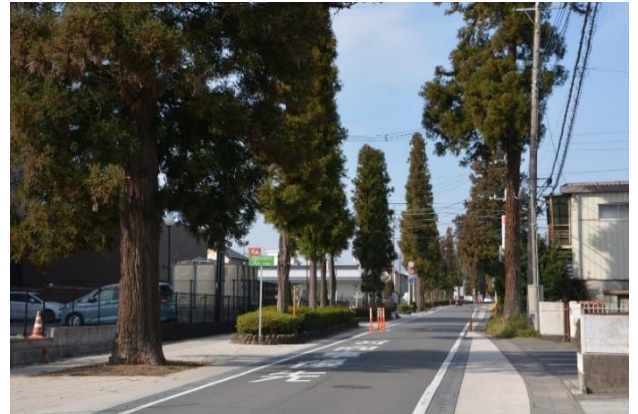
安中市における良好な景観の形成を促進するために景観法に基づく景観行政団体となりました。今後は、景観計画を策定・運用し、景観計画に示された基本理念の実現を図るために景観条例を公布・施行します
重2-1.景観計画策定事業（～R3予定）



【市内各地区から望む妙義山】



【碓氷第三橋梁（めがね橋）】



【旧中山道 原市・杉並木】

蚕糸業承継対策として補助金を交付し、伝統産業を継承できるよう補助します。
また、碓氷製糸経営基盤強化事業として、碓氷製糸農業協同組合から組織変更して発足した碓氷製糸（株）が、製糸業及び絹産業の存続と発展に挑むための施設整備や商品開発を支援し、地域の魅力を増やすとともに、特産品の生産を補助します

重2-6.蚕糸業承継対策事業 重2-7.碓氷製糸経営基盤強化事業



【碓氷製糸工場内部】



【碓氷製糸の繭製品（マスク）】

国指定史跡になっている築瀬二子塚古墳の保存活用について、保存活用計画策定委員会を設置し、計画の策定を進めます。

重2-3.史跡二子塚古墳等保存活用計画策定事業（～R4予定）



【築瀬二子塚古墳】

集客交流情報を発信する。

群馬あんなかロケーションサービスとして、本市の撮影受入体制を整備し、撮影誘致を行うことで、観光スポットや地域資源を市内外にPRし、観光客の増加を図り、観光振興・地域振興を行います。

また、観光地域づくり法人（DMO）事業の展開を図るなど、行政と地域団体とが一体となった取り組みを目指します。

重2-2.ロケーションサービス事業

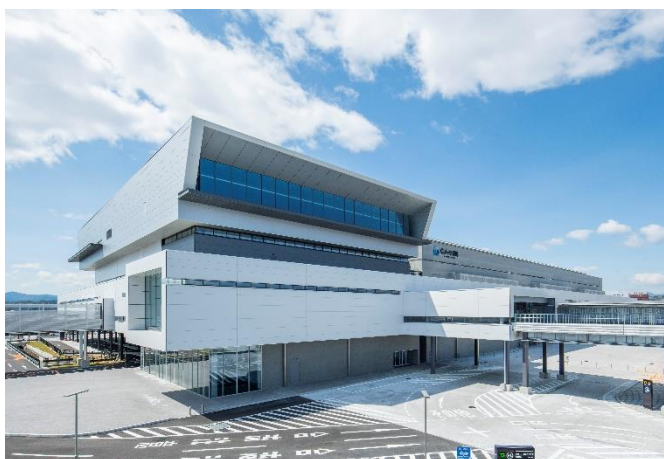


【安中まち映画
『ライズand
シャトル』】



【撮影風景】

地域経済を活性化させるため全国または関東規模のコンベンションが開催され、県外からの会議参加者が安中市内へ宿泊する場合、助成金を支給し、市内への誘客を促進し、地域経済の活性化を図ります。



【G Messe】



【磯部温泉旅館内コンベンションホール】

居住人口を維持する。

「移住定住を促進」及び「担い手不足解消」を図るため、東京圏から市内へ移住した東京23区（特別区）の在住者・通勤者のうち、対象法人に就職した人などに補助金を交付します。また、オンラインによる移住相談会などに参加することによって移住に関して広く周知し、まちのまとまりを中心とした人口の維持・増加を図ります。



雇用の場を増やす。

「あんなか企業ガイド」を開設し、市内企業の紹介に併せ、市内事業所への雇用促進を図るとともに、企業の進出による雇用の場を増やします。



【横野平工業団地・企業進出予定地】

～あんなか企業ガイド～		<small>(日本標準産業分類の中期を記載して下さい)</small>	
会社名		所在地	
URL:		代表者	
		TEL	
		FAX	
○事業内容		写真NO1(建屋、事務所内、工場内、製品、従業員などのPR写真)	
○資本金	円		
○従業員数	人		
○設立		○事業所の紹介-PR	
		写真NO2(建屋、事務所内、工場内、製品、従業員などのPR写真)	
○求める人材			
○社長・従業員からのひとこと		写真NO3(左コメントの人、代表者、仕事中の写真、その他何でも)	

【あんなか企業ガイド紹介掲載様式】

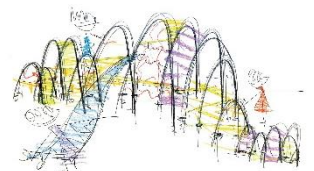
子育て・教育環境を充実させる。

子育て支援拠点等管理運営事業として、子育て中の親子からお年寄りなどの多世代の交流を促進する子育て拠点施設の管理運営を行います。また、児童生徒数の減少を踏まえ、学校の再編など今後の学校のあり方の検討を推進するとともに、まちのまとまりを考慮しつつ、学校施設の計画的かつ適正な維持管理に努めます。
重1-17.子育て支援拠点等管理運営事業



【あんなかスマイルパーク全景】

【ケルナー遊具・イメージ】



介護・医療を充実させる。

介護が必要な状態になっても住み慣れた土地で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

また、群馬県地域医療構想も踏まえながら、今後も医療環境の変化に対応していきます。



【公立碓氷病院】

地域力を高める。

市民活動表彰制度を創設し、長年にわたり公益的な市民活動を自主的に行っている団体や個人の方を表彰しています。住みよい地域づくりや公共の福祉の増進に貢献された方々が表彰されており、過去には地域づくり分野や環境美化分野をはじめとする様々な分野から選ばれています。



【令和2年度受賞者の活動風景】

地域おこし協力隊事業として、都市部の人材を地域の新たな担い手として受け入れ、地域の課題解消に向けた活動と、定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を目指します。

これまで3名の隊員を採用しており、市内にて地域の活性化や市の魅力の創出・発掘・発信などに関する活動を行っています。今後も継続して隊員を募集していきます。

【地域おこし協力隊員プロデュースのイベント例】

梅うどん作り
&
竹細工体験

冬の秋間で体験！！
元気いっぱい笑顔でお客をお待ちしています！

限定20名

お申込	<p style="text-align: center;">午前10時00分～午後14時00分</p> <p style="text-align: center;"><small>詳しく次第終了</small></p> <p>お申込先：027-385-6555 (一社)安中市観光機構 9:00 - 17:00</p> <p>参加料金：3,800円</p> <p>お持ち物：三角巾・エフロン</p>
体験内容	<p>10:00 秋間梅林市営第二休憩所集合</p> <p style="text-align: center;">梅うどん作り・竹細工作り</p> <p>13:00 うどん試食</p> <p>14:00 解散</p>

参加してくれた
お客様へ梅加工品を
プレゼント！！

協賛：秋間梅林観光協会

歴史・文化を保全・活用する。

開園後20年が経過している碓氷峠鉄道文化むらは、施設・設備の老朽化が進んでいるため、計画的に改修を行います。総合整備計画事業を進めることにより、鉄道遺産と歴史文化を後世に伝えるとともに、観光客の増加を図ります。また、廃線によって立入禁止となった信越本線新線を歩くウォークのイベントを実施するなど、県内外への周知を進めていきます。

重2-4.碓氷峠鉄道文化むら総合整備計画事業



【碓氷峠鉄道文化むら】



【廃線ウォークの様子】

碓氷関所保存整備事業（歴史の道整備事業）として、整備基本計画、基本設計、実施設計を策定し、歴史の道の整備工事を実施します。また次段階では、堂峰番所の調査・整備を行うなど、交通の要衝として栄えてきた歴史の維持・保全に努めます。

重2-5.歴史の道整備事業



【旧中山道】

市内を流れる碓氷川周辺の安中層群原市層から、世界最古のマイルカ科の化石が発見されました。一千年前までは海だったとされており、イルカ・クジラ類が相当数生息していたと考えられています。今後は当市の特徴ある観光資源として有効活用できるよう検討していきます。



【世界最古のマイルカ科の化石が発見された周辺】

基本方針4. 都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保

移動手段の選択肢を増やす。

「新たな移動手段」導入事業として、地元のボランティアの組織（協議会）に対し、活動に必要な車両及び経費等の補助を行い、交通弱者の移動手段を確保し、生活の利便性の向上を目指します。

重1-1 1.新たな移動手段導入事業（細野ボランティアタクシー）



【新たな移動手段の実証実験の様子】

移動の負担を軽減する。

県の事業として、令和11年度の開通を目指し、西毛広域幹線道路の整備を行っています。市では街路事業（用地買収業務）の一環として、市役所周辺の市街地部分の用地購入の交渉をしています。また、3・5・7扇城下秋間線整備事業として、国道18号と西毛広域幹線道路を結ぶ、アクセス道路の整備を行います。今後は、これらの整備事業により生活利便性の向上、渋滞緩和、交流人口の増加を図ります。

重1-1 2.西毛広域幹線道路バイパス整備 重1-1 3.3・5・7扇城下秋間線整備事業（～R3予定）



【西毛広域幹線道路整備予定地】



【扇城下秋間線道路開通予定地】

基本方針5. 災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化

安全・安心な地域を維持する。

市民サービスの向上と災害時の防災拠点としての機能を果たせるよう、老朽化、狭あい、耐震性不足など、現庁舎（旧庁舎及び中庁舎）が抱える問題点を解消するための整備方法を検討します。併せて、松井田庁舎の長寿命化を図ります。

また、指定避難所に対して避難所用災害対応ガス発電機械設備を設置するなど、災害時に備えた対応を進めます。

重1-2.現庁舎の整備、重1-3.松井田庁舎の長寿命化、重1-4.避難所災害対応設備設置事業



【安中市役所本庁・新庁舎】



【安中市役所本庁・旧庁舎、中庁舎】

通学路安全管理事業として、毎年行われる通学路安全点検にて点検した危険箇所について各学校ごとに安全対策を行います。また、県により、歩行者や自転車の安全な通行を確保するため県道各所において歩道や電線共同溝の整備を行います。

重1-5~8.通学路安全管理事業と歩道整備

通学路対策箇所図(イメージ)



基本方針6. ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり

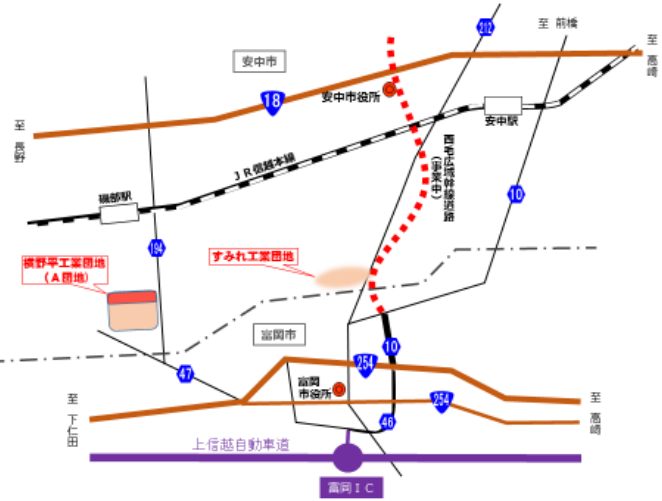
企業や産業の誘致を図る。

既存の横野平工業団地の増設に加え、西毛広域幹線道路の開通に併せてすみれ工業団地の拡張など、産業用地の候補地を選定し、新たな工業団地の開発を行い、市内への企業誘致を進めます。また、市内産業団地等に事業所を新設する企業に対して様々な優遇措置を設けています。

重2-8.企業誘致推進事業



【横野平工業団地付近】



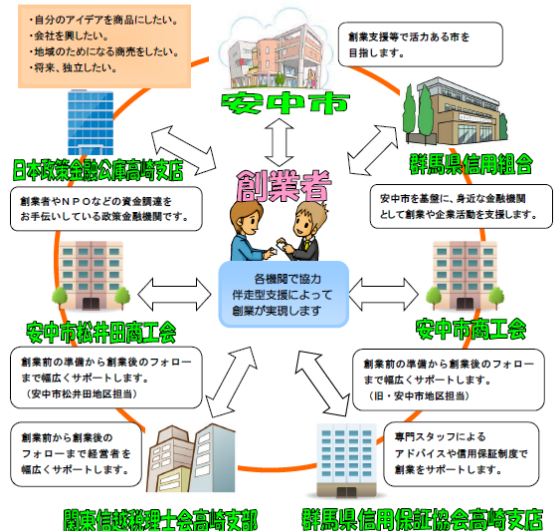
新たな産業を創出する。

市内で新たに創業をする者に対して、市も参画する「あんなか創業支援ネットワーク」における創業支援事業等を活用し、創業時の支援や創業後のフォローアップを行い、地域の活性化と雇用の定着、促進を図ります。

重2-9.創業者支援事業

起業・創業を応援します！

あんなか創業支援ネットワーク



令和2年5月1日現在

6次産業化支援事業として、6次産業化に取り組む農業者の組織する団体等のうち、試作品開発等のソフト事業に取り組む団体や、設備の導入とハード事業に取り組む団体に対して支援を進め、新たな産業の育成と、特産品の増加を図ります。

重2-10.6次産業化支援事業



【秋間梅林の梅製品】

基本方針7. 家計にも環境にも優しい付加価値の高い効率的なまちづくり

地域ニーズに適合した質の高い行政サービスを提供する。

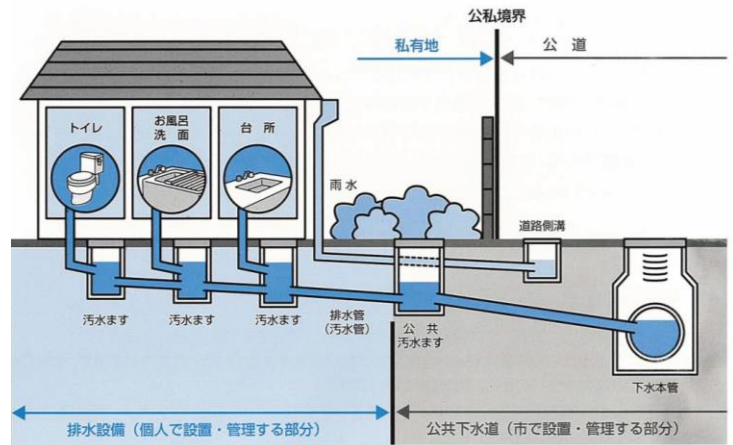
大切な人がお亡くなりになった後の各種手続きについて、「よりそいコーナー」を設置しました。様々な手続きがワンストップで行えるようにすることで、ご遺族の負担の軽減に努めます。



令和2年度末の汚水処理人口普及率は67.2%であり、県内および全国の平均値を大きく下回っています。

今後は、公共用水域の水質保全に取り組み、下水道未普及区域を計画的に整備するとともに、その他の地区においては合併処理浄化槽による汚水処理の推進を図ります。

排水設備のしくみ（分流式下水道）



※安中市の下水道は、雨水が流れませんので、工事の際はご注意ください。

廃棄物の削減とリサイクルを促進する。

古紙・古着をはじめ、廃油や小型家電の回収を推進し、廃棄物削減に努めます。また、ごみ収集カレンダーのデザインを一新し、より見やすいものにすることで、再利用できるものがすぐにわかるようにするなど、リサイクルがさらに進むような工夫をします。

家庭用 資源・ごみ収集日程表(令和3年度版)

資源ごみの分別にご協力ください!!

飲料缶(資源)
※透明または半透明の瓶に入れてください。

びん(資源)
※透明または半透明の瓶に入れてください。

飲料缶のみ
飲料缶以外の缶(味噌・芋など)は「不燃物」で出してください。

飲料用・食料用・調味料のびん
化粧品のびん・数滴のびんは「不燃物」で出してください。

古紙・古着(資源)
古紙(新聞、ダンボール、紙パック、雑誌・雑誌がみ)
※種類ごとに分別もんでしぼって出してください。

古着・古靴
※透明または半透明の袋に入れて、しっかりと縛ってください。

家庭用 資源・ごみ収集日程表(令和3年4月~令和4年3月)

収集地区名 安中1区(中宿)の内、浜安中駅より東側・遠丸団地下高別当地区・岩野谷(岩井、野殿、大谷)地区・最良地区

燃えるごみ		月・木曜日	
リサイクルにご協力ください!!			
飲料缶	びん	不燃物	
(週によって回収品目が変わります)			
品目	飲料缶	びん	不燃物
4月	16日	2日・23日	9日・30日
5月	7日・28日	14日	21日
6月	25日	4日	18日
7月	16日	2日・23日	9日・30日
8月	6日・27日	13日	20日
9月	24日	3日	17日
10月	15日	1日・22日	8日・29日
11月	5日・26日	12日	19日
12月	24日	3日	17日
1月	21日	7日・28日	14日
2月	11日	18日	4日・25日
3月	4日	18日	25日

古紙	4月14日(水)	5月12日(水)	6月9日(水)	7月14日(水)
古着	8月11日(水)	9月8日(水)	10月13日(水)	11月10日(水)
	12月8日(水)	1月12日(水)	2月9日(水)	3月9日(水)

蛍光管 乾電池
6月11日(金) 9月10日(金) 12月10日(金) 3月11日(金)

<注意> この地区は12月29日(水)に燃えるごみのみ特別に収集します。
※年末年始収集休業期間: 12月30日(水)~1月3日(月)

10. 重点プロジェクト

安中市が目指すべき望ましいまちを実現するにあたっては、複数の関連する事業を一つのプロジェクトとして実施することで、個別に着手するよりも大きな効果を発現することが期待できます。

そのため、今後継続して行われる複数の関連施策を一つのプロジェクトとしてまとめ、重点的に取り組みます。

■プロジェクトの策定基準

課題分析した結果から取り組むべき課題は多いですが、誰もが安心して快適に暮らせる生活環境を形成し、定住人口の増加を目指すことと、特徴ある資源や魅力ある文化遺産等を活かして交流人口の増加を図るため、それらに関連する事業を一つのプロジェクトとして策定します。

また、それぞれのプロジェクトには、第2次安中市総合計画に基づいた目的を設定し、それらに沿った取組を行います。

重点プロジェクト1

快適さと魅力あふれるいきいきまちづくり

■目的

西毛広域幹線道路の開通により、富岡市・前橋市へのアクセスが良好になることから、今後は都市機能の充実を図り、定住人口の維持・増加に努めます。

また、空き家対策や住宅リフォーム補助事業を行い、住環境の向上を図ります。

手段1：適正な土地利用の推進

手段2：防災・減災対策の推進

手段3：道路・公共交通の利便性の向上

手段4：居住環境の向上

重点プロジェクト2

豊かな観光資源を活かした安中らしいにぎわいまちづくり

■目的

妙義山をはじめとする数々の美しい自然景観や、魅力ある歴史遺産等の保全・活用を行い、インバウンドや県内外からの交流人口増加を図ります。

また、蚕糸業をはじめ様々な地場産業を支援することにより、まちの活気の維持・向上を目指します。

手段1：良好な景観形成

手段2：観光資源の活用・利用促進

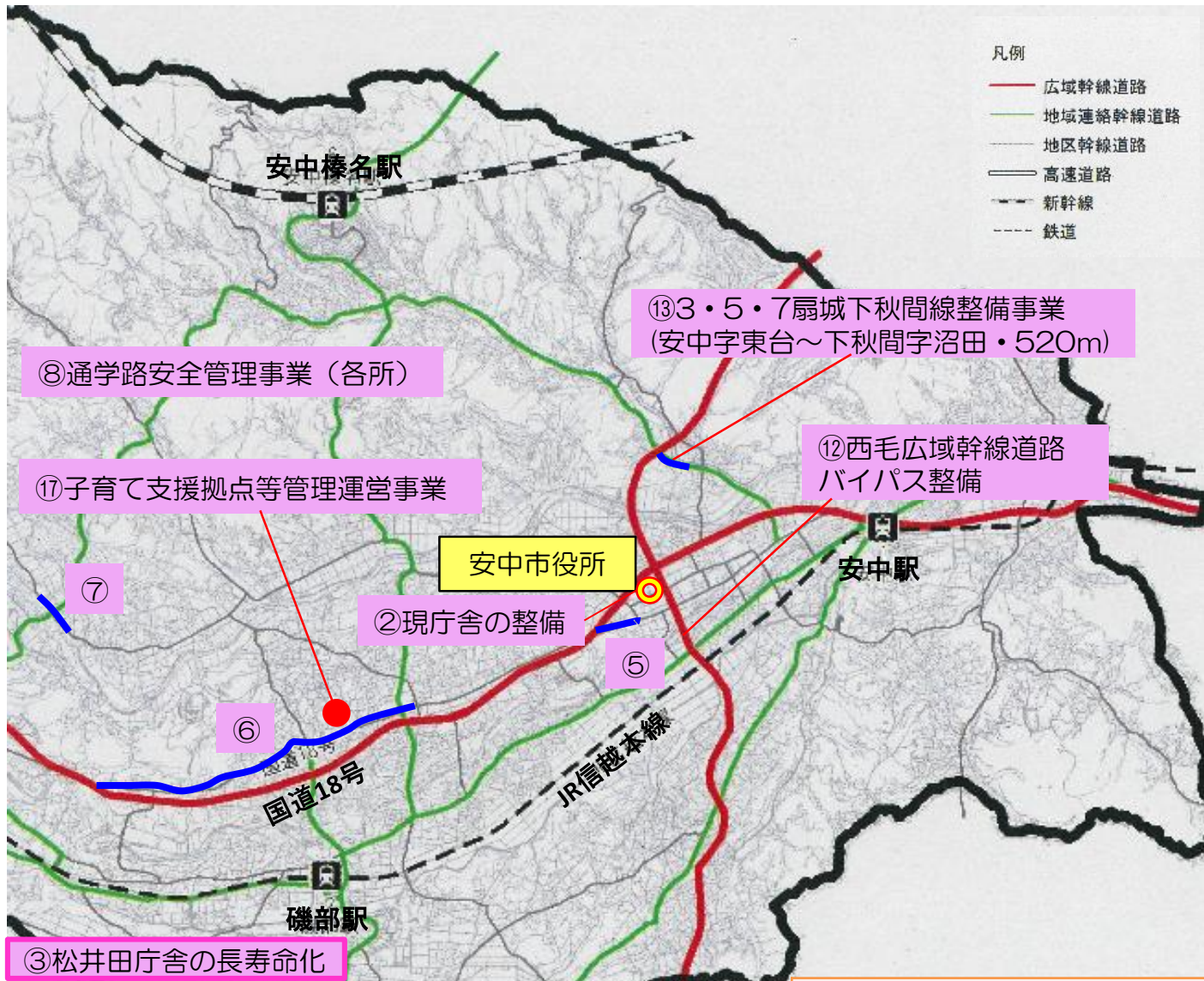
手段3：歴史・文化遺産等の保全・活用

手段4：伝統産業の保存・新たな産業の確立

重点プロジェクト1

快適さと魅力あふれるいきいき まちづくり

具体的な取組の主な実施場所



都市計画区域内
①土地利用に関する都市計画見直し事業

市内全域
④避難所用災害対応ガス発電機械設備の設置
⑨交通弱者救済措置事業
⑩公共交通見直し事業
⑪新たな移動手段導入事業
⑭空き家リフォーム補助事業
⑮移住定住促進住宅取得支援事業あんなか住まいりー奨励金
⑯住宅リフォーム補助事業

歩道整備 凡例	
⑤	県道一本木平小井戸安中線 (安中工区) 電線共同溝整備
⑥	県道長久保郷原線 (原市工区) 歩道整備
⑦	県道長久保郷原線 (松井田工区) 歩道整備

重点プロジェクト1

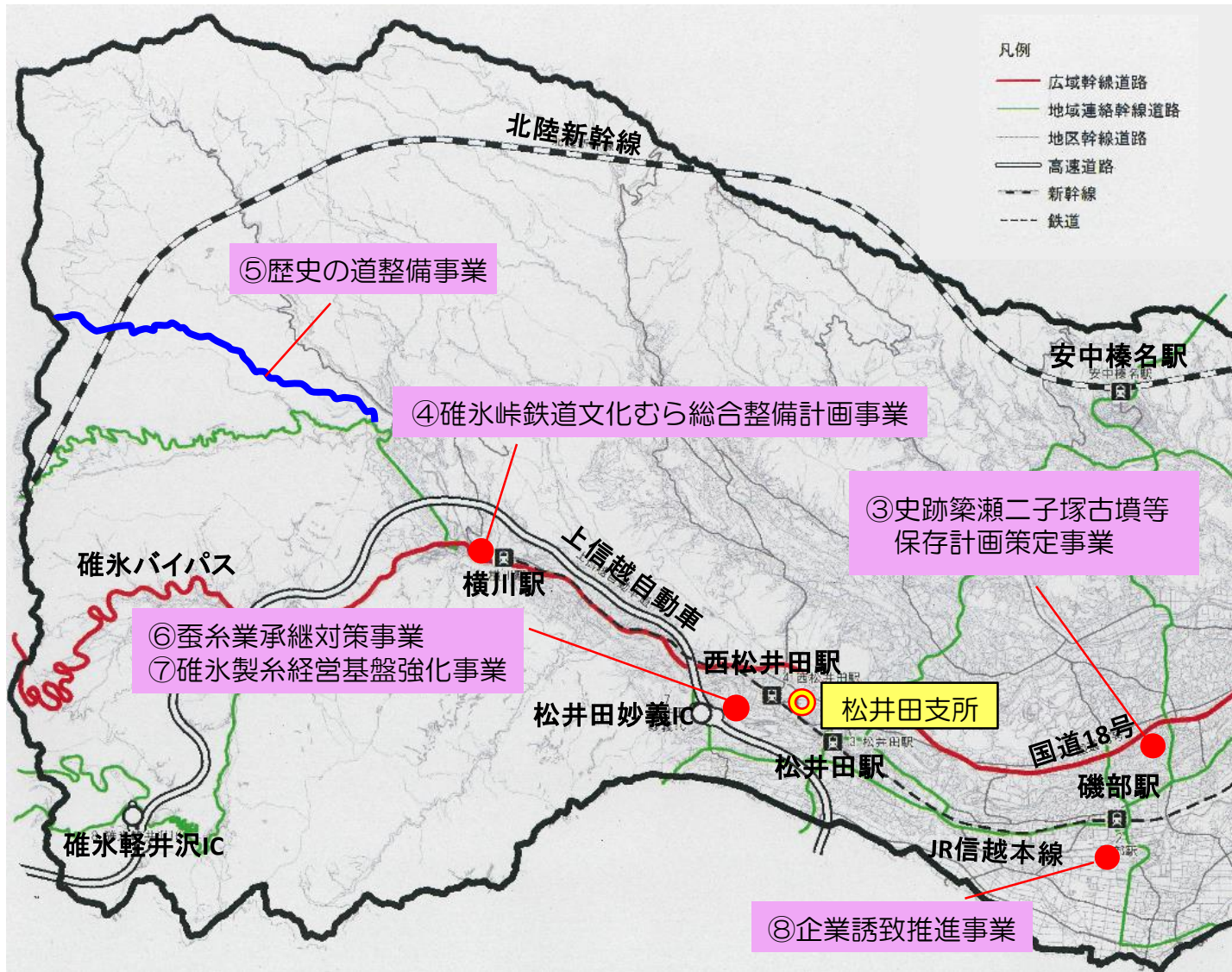
快適さと魅力あふれるいきいきまちづくり

成果指標	現 状 値	目 標 値
市の人口(人)	(令和2年)	(令和7年)
	57,357人	53,082人超 (第2次安中市総合計画)

手 段	基本方針	具 体 的 な 取 組 内 容	実 施 体	工 程 表					取 組 状 況
				3年	4年	5年	6年	7年	
適正な土地利用の推進	1	1. 土地利用に関する都市計画見直し事業	市	調整	計画決定	活用			新規
防災・減災対策の推進	5	2. 現庁舎の整備	市	調整					継続
	5	3. 松井田庁舎の長寿命化	市	設備更新					継続
	5	4. 避難所用災害対応ガス発電機設備の設置	市						継続
	5	5. 県道一本木平小井戸安中線(安中工区)電線共同溝整備	県						継続
	5	6. 県道長久保郷原線(原市工区)歩道整備	県						継続
	5	7. 県道長久保郷原線(松井田工区)歩道整備	県						継続
	5	8. 通学路安全管理事業	市						継続
	道路・公共交通の利便性の向上	1	9. 交通弱者救済措置事業	市					
1		10. 公共交通見直し事業	市						継続
4		11. 新たな移動手段導入事業(細野ボランティアタクシー)	市						継続
4		12. 西毛広域幹線道路バイパス整備	県	令和11年度まで継続					継続
4		13. 3・5・7扇城下秋間線事業	市						継続
居住環境の向上	2	14. 空き家リフォーム補助事業	市						継続
	2	15. 移住定住促進住宅取得支援事業 あんなか住まいりー奨励金	市						新規
	2	16. 住宅リフォーム補助事業	市						継続
	3	17. あんなかスマイルパーク管理運営事業	市	設置整備	活用				新規

重点プロジェクト2

豊かな観光資源を活かした安中らしい にぎわいまちづくり 具体的な取組の主な実施場所



- 市内全域**
- ①景観計画策定事業
 - ②ロケーションサービス事業
 - ⑨創業者支援事業
 - ⑩6次産業化支援事業

凡例	
	国道18号
	上信越自動車道
	北陸新幹線
	JR信越本線

重点プロジェクト2

豊かな観光資源を活かした安中らしい にぎわいまちづくり

成 果 指 標	現 状 値	目 標 値
観光客数(千人)	(平成29年度)	(令和8年度)
	1, 393千人	1, 800千人 (第2次安中市総合計画)

手 段	基 本 針	具 体 的 な 取 組 内 容	実 施 体	工 程 表					取 組 状 況
				3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	
良好な景観形成	3	1. 景観計画策定事業	市	策定	運用				継 続
観光資源の活用・利用促進	3	2. ロケーションサービス事業	市	運用					継 続
歴史・文化遺産等の保全・活用	3	3. 史跡築瀬二子塚古墳等保存活用計画策定事業	市	策定	運用				新 規
	3	4. 碓氷峠鉄道文化むら総合整備計画事業	市	運用					継 続
	3	5. 歴史の道整備事業	市	設計調査	整備工事				新 規
伝統産業の保存・新たな産業の確立	3	6. 蚕糸業承継対策事業	市	運用					継 続
	3	7. 碓氷製糸経営基盤強化事業	市	運用					継 続
	6	8. 企業誘致推進事業	市	運用					継 続
	6	9. 創業者支援事業	市	運用					継 続
	6	10. 6次産業化支援事業	市	運用					継 続



安中市マスコットキャラクター
こうめちゃん



安中市